宇都宮ゆかりの
百人一首における
指導のあり方



宇都宮市教育委員会

は じ め に

宇都宮市では，平成 24 年度から宇都宮市の小･中学校全校で「小中一貫教育」と「地域学校園」をスタートさせました。その「小中一貫教育」に合わせて「会話科」の授業がはじまり，小学校１年生～中学校 1 年生までの学年で授業を実施しています。

会話科の時間は，「英会話の時間」と「ことばの時間」に分かれており，「ことばの時間」は日本語での言語運用能力を伸ばすと共に，積極的に他者とコミュニケーションをとろうとする態度を育てることを目的として行われています。さらに，「ことばの時間」では，百人一首を取り扱う時間が，小学校１年生から中学校１年生までの各学年に設けられており，そこでは短歌を通して日本語の響きやリズムの美しさを味わうことを目標としています。

また，本市は百人一首ゆかりの地でもあることから，百人一首の普及とともに，宇都宮と深い関わりのある「小倉百人一首」に親しむために，「うつのみや百人一首市民大会」や「うつのみや百人一首普及啓発事業」など，様々な事業を実施しているところであります。毎年開催されている，うつのみや百人一首市民大会では，小学生から一般の方まで，多くの方に参加していただいております。

しかし，学校での授業をみると，会話科の授業が本格的にはじまってから，まだ日が浅いため，他の教科と比較すると十分な教材がなく，その中でも百人一首に関する指導法や事例集が充実していないため，指導に苦慮をしていました。また，「授業を行う上で参考になるような資料や授業の実践例が欲しい」，「誰でも簡単に使用できる教材が欲しい」という声も多く聞こえてきました。

そこで，このたび小中学校の教員が集まり，宇都宮と深い関わりのある百人一首に興味・関心を持った児童・生徒を増やすとともに，百人一首の授業内容が充実したものになるように，会話科での百人一首の指導方法を検討し，指導資料や実践事例集を作成することにしました。

今回作成した資料や教材は，電子データでも提供する予定でありますので，活用の際には，各学校やクラスの実情に合わせて加工して利用することが可能となっています。本調査研究が，少しでも先生方の百人一首の指導に役立つと共に，児童・生徒が楽しんで取り組むことができるようになることを期待するものです。

むすびに，本調査研究に参加いただき，さまざまな提案及び資料を作成いただいた研究員の皆様に心より感謝申し上げます。

平成２７年３月

宇都宮市教育委員会

目　次

はじめに

Ⅰ　ことばの時間における百人一首の時間について
　１　百人一首の指導の現状と課題----------１
　２　本調査研究の考え方----------２

Ⅱ　百人一首の指導資料・教材について
　１　百人一首詠み上げ教材----------３～４
　２　歴史的仮名遣い表記と現代の表記の違い----------５～１０
　３　小中学校で使用することのできる統一的ルール----------１１～１８
　４　「宇都宮ゆかり」百人一首成り立ち物語教材----------１９～２０
　５　簡単カルタ札作成教材----------２１～２２
　６　百人一首保護者啓発資料----------２２

Ⅲ　百人一首の指導実践・活動例
　１　クラスでちらし戦を行う際の授業実践例----------２３～２４
　２　隙間時間で低学年でもできる百人一首指導の工夫----------２５～２６
　３　低学年への取り組ませ方について----------２７～２８
　４　百人一首大会を開こう（クラス編）----------２９～３０
　５　会話科以外の時間で行う百人一首の活動例----------３１～３２

Ⅳ　百人一首に取り組むことで得られる，期待される効果
　１　学級経営への効果について----------３３
　２　児童・生徒への効果について----------３４

Ⅴ　参考
　１　百人一首大会の開きかた（校内編）----------３５～４０
　２　競技かるた統一ルール----------４１～４５
　３　いろいろな「枚数」と「人数」を使った活動例----------４６～５１
　４　本調査研究で紹介されている指導事例や教材について----------５２
　５　年間指導計画における百人一首の時間----------５３～５４

本調査研究員----------５５

Ⅰ ことばの時間における百人一首の時間について

1 百人一首の指導の現状と課題

まず，本調査研究に取り組むにあたって，百人一首の指導の現状と課題について考えました。挙げられた現状と課題をまとめると，百人一首を指導する上で使用できる「教材や資料の開発」や「百人一首の指導実践例」が必要ではないかと考えられました。また，百人一首に取り組むことで得られる学級経営への効果や学習効果などが十分に知られていないということも挙げられました。

挙げられた百人一首の現状と課題は以下の通りであります。

○ 小学校１年生から，10 首程度の百人一首に触れ，ちらし取りを楽しむことになっている。そのため，歴史的仮名遣いの表記と現代の表記との違いに気づかせながら百人一首に触れさせなければならない。

○ 低学年で初めて百人一首に触れる児童が多いので，いろいろな時間で児童に慣れ親しませるような活動の工夫が必要。

○ 百人一首を行うにあたって，統一したルールやきまりが分からない。

○ 教室で百人一首を行う際に，同じ能力同士が集まったグループの編成や，試合を行いやすくするためのグループ編成などが難しい。

○ 会話科以外の時間を使った，百人一首を用いた活動例が知りたい。

○ 百人一首が宇都宮ゆかりであることが，児童に分かりやすく説明する資料や教材が少ない。

○ 百人一首を，正しい詠み方で朗詠することができる教員が少ない。

○ 学校に十分な数のカルタ札が用意されていない場合がある。

○ 百人一首に取り組むことによって得られる学級経営への効果，児童・生徒への学習効果が実感できない。

2 本調査研究の考え方

「１　百人一首の指導の現状と課題」を踏まえて，「百人一首を指導する際にすぐに使える教材や資料の開発」，次に「百人一首を指導する際に参考になる具体的な指導資料や実践例の紹介」，そして「百人一首に取り組むことで得られる，学級経営や児童・生徒への効果」などの調査を行うことにしました。本調査研究の主な内容は以下の通りであります。

（１） 百人一首の指導資料・教材について

- ○　百人一首詠み上げ教材の開発について
- ○　歴史的仮名遣い表記と現代の表記の違いの資料提示について
- ○　小中学校で使用することができる統一的ルールについて
- ○　百人一首が宇都宮ゆかりであることが分かる資料や教材について
- ○　カルタ札を作成する教材の開発について
- ○　百人一首保護者啓発資料について

（２） 百人一首の実践・活動例について

- ○　クラスでちらし戦を行う際の授業実践例
- ○　隙間時間で低学年でも行える百人一首の指導の実践例
- ○　低学年を中心とした，百人一首の札を使った活動例
- ○　クラスで百人一首大会を開催する実践例
- ○　会話科以外の時間で行う百人一首の活動例

（３） 百人一首に取り組むことで得られる，期待される効果

- ○　学級経営への効果について
- ○　児童・生徒への効果について

Ⅱ　百人一首指導資料について

1　百人一首詠み上げ教材

ここでは，全学年で使用することができる，音声教材「みやびぃ百人一首歌詠み」の紹介をします。

百人一首を詠む上で，難しいのは，和歌の詠み方とは異なる，百人一首独特の「音の高さ」，「伸ばし方」，「間の取り方」です。しかし，正しい詠み方は，大会に出場したり，百人一首に十分に慣れ親しんだりしなければ，完全に習得することが難しいと思われます。

そこで，百人一首の詠みの音声を電子データにし，パソコンを使えば簡単にダウンロードができ，再生することができる音声教材「みやびぃ百人一首歌詠み」を作成しました。

> ※小学校６年生の会話科には「百人一首音読発表会」があり，そこでは，百人一首の朗詠を通し，日本語の響きやリズムの美しさを味わうとある。百人一首音読発表会の目標としては，「歌の雰囲気を生かした朗詠の仕方（強弱や間の取り方）が分かる」，「歌のリズム，言葉の響きを味わいながら詠み，発表することができる」となっている。

音声教材「みやびぃ百人一首歌詠み」

選んだ歌を詠んでくれます。ことばの時間や国語に使えます。

①スタート画面



②音程の例



- 上段の文字が詠みと共に赤字に変わります。
- 中段の文字が音程と詠む長さです。詠みと共に黄色に〇部分が変わります。
- 下段のボタンで「進む・戻る」をします。

③「う」・「つ」・「の」・「み」・「や」　各２０首



歌をクリックすると，歌のページにうつります。

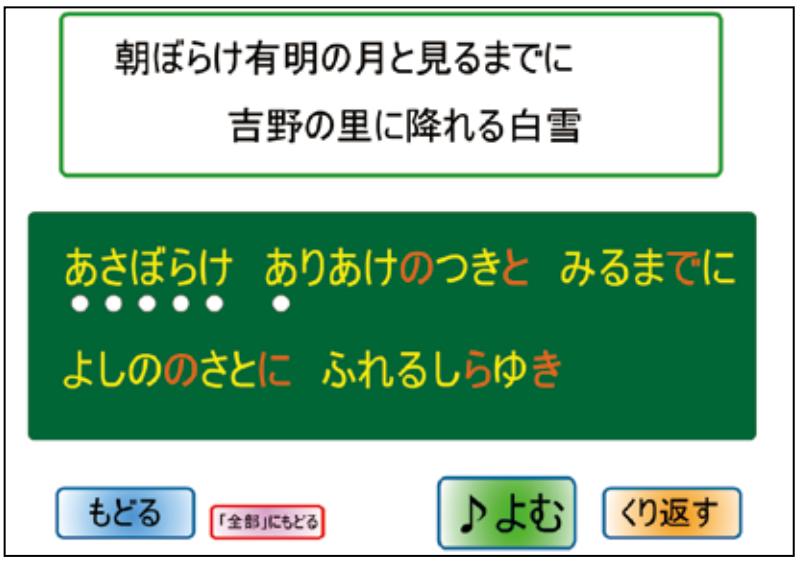
各ボタンをクリックすると，「う」「つ」「の」「み」「や」「全部」の和歌の画面にうつります。

④全部画面



- 「みやびぃ百人一首　学級かるた」の順に配列されています。
- 春･夏･秋･冬･恋の歌ごとに色分けされてあります。

⑤読みの例



- 上段は漢字とひらがなで歌を表示してあります。
- 中段はひらがな表示で音を表示してあります。
- ○は決まり字です。
- 文字色が赤いのは伸ばす音です。
- 「よむ」ボタンで詠み始めます。
- 「くり返す」ボタンで繰り返し詠みます。
- 「もどる」ボタンで③の画面へ移ります。

本教材は，「宇都宮の歴史と文化財」のホームページでダウンロード可能となっています。本書 p52 の「４　本調査研究で紹介されている指導事例や教材について」を参照してください。

2 歴史的仮名遣い表記と現代の表記との違い

ここでは，百人一首で使われている現代と異なる書き表し方（歴史的仮名遣い）と現代の仮名遣いとの違いについて紹介します。

古くは万葉集から，枕草子や源氏物語などの古典作品がそうであるように，鎌倉時代に成立した百人一首も基本的に歴史的仮名遣いで表記されています。

ここでは，実際に百人一首において使われている歴史的仮名遣いを一覧にして，現代仮名遣いとの違いを理解することで，耳で聞いたときに違和感がないようにしていくことを目的としています。

はじめに歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いについて書いておきます。

1　一文字がひとつの読みに対応している場合

①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」と読む。

＜用　例＞

あはれ→あわれ　わらひ→わらい　さそふ→さそう

いにしへ→いにしえ　にほ ひ→にお い

②「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」と読む。

＜用　例＞

ゐたり→いたり　こゑ→こえ　をとこ→おとこ

③「ぢ・づ」→「じ・ず」と読む。

＜用　例＞

うぢやま→うじやま　みづ→みず

④「む」→「ん」と読む。

＜用例＞

いまこむ→いまこん

2　二文字がひと組となってひとつの読みに対応している場合

①「くわ・ぐわ」→「か・が」と読む。

＜用　例＞

くわかく（過客）→かかく　にんぐわつ（二月）→にんがつ

②「ア段＋ふ（う）」→「オ段＋う」と読む。

＜用　例＞

あふさか→おうさか

③「イ段＋ふ（う）」→「イ段＋ゅう」と読む。

＜用　例＞

うつくしう→うつくしゅう

④「エ段＋ふ（う）」→「イ段＋ょう」と読む。

＜用　例＞

けふ→きょう

※　すべての場合であてはまるわけではありません。実際の言葉で確認していきましょう。

小倉百人一首における歴史的仮名遣い(囲んだ部分が歴史的仮名遣い)　う１～う２０

※　取り札には濁点「゛」は使われていないので注意しましょう。下線部は決まり字を示しています。

※　囲んだ部分は，現代仮名遣い（読み）を参考にして読みましょう。

みやびぃカルタ		百人一首	上の句	下の句	現代仮名遣い（読み）
う	1	1	あきのたの　かりほのいほの　とまをあらみ	わがころもでは　つゆにぬれつつ	ほ→お
う	2	6	かささぎの　わたせるはしに　おくしもの	しろきをみれば　よぞふけにける	
う	3	11	わたのはら　やそしまかけて　こぎいでぬと	ひとにはつげよ　あまのつりぶね	
う	4	16	たちわかれ　いなばのやまの　みねにおふる	まつとしきかば　いまかへりこむ	ふ→う　へ→え
う	5	21	いまこむと　いひしばかりに　ながつきの	ありあけのつきを　まちいでつるかな	む→ん　ひ→い
う	6	26	をぐらやま　みねのもみぢば　こころあらば	いまひとたびの　みゆきまたなむ	を→お　ぢ→じ
う	7	31	あさぼらけ　ありあけのつきと　みるまでに	よしののさとに　ふれるしらゆき	
う	8	36	なつのよは　まだよひながら　あけぬるを	くものいづこに　つきやどるらむ	ひ→い　づ→ず　む→ん
う	9	41	こひすてふ　わがなはまだき　たちにけり	ひとしれずこそ　おもひそめしか	ひ→い　てふ→ちょう
う	10	46	ゆらのとを　わたるふなびと　かぢをたえ	ゆくへもしらぬ　こひのみちかな	ぢ→じ　ひ→い
う	11	51	かくとだに　えやはいぶきの　さしもぐさ	さしもしらじな　もゆるおもひを	ひ→い
う	12	56	あらざらむ　このよのほかの　おもひでに	いまひとたびの　あふこともがな	む→ん　ひ→い　ふ→う
う	13	61	いにしへの　ならのみやこの　やへざくら	けふここのへに　にほひぬるかな	へ→え　けふ→きょう　ほ→お　ひ→い
う	14	66	もろともに　あはれとおもへ　やまざくら	はなよりほかに　しるひともなし	へ→え
う	15	71	ゆふされば　かどたのいなば　おとづれて	あしのまろやに　あきかぜぞふく	ふ→う　づ→ず
う	16	76	わたのはら　こぎいでてみれば　ひさかたの	くもゐにまがふ　おきつしらなみ	ゐ→い　がふ→ごう
う	17	81	ほととぎす　なきつるかたを　ながむれば	ただありあけの　つきぞのこれる	
う	18	86	なげけとて　つきやはものを　おもはする	かこちがほなる　わがなみだかな	は→わ　ほ→お
う	19	91	きりぎりす　なくやしもよの　さむしろに	ころもかたしき　ひとりかもねむ	む→ん
う	20	96	はなさそふ　あらしのにはの　ゆきならで	ふりゆくものは　わがみなりけり	ふ→う　は→わ

小倉百人一首における歴史的仮名遣い(囲んだ部分が歴史的仮名遣い)　つ１～つ２０

※　取り札には濁点「゛」は使われていないので注意しましょう。下線部は決まり字を示しています。

※　囲んだ部分は，現代仮名遣い（読み）を参考にして読みましょう。

みやびぃカルタ		百人一首	上の句	下の句	現代仮名遣い（読み）
つ	1	2	はるすぎて　なつきにけらし　しろたへの	ころもほすてふ　あまのかぐやま	へ→え　てふ→ちょう
つ	2	7	あまのはら　ふりさけみれば　かすがなる	みかさのやまに　いでしつきかも	
つ	3	12	あまつかぜ　くものかよひぢ　ふきとぢよ	をとめのすがた　しばしとどめむ	ぢ→じ　を→お　む→ん
つ	4	17	ちはやぶる　かみよもきかず　たつたがは	からくれなゐに　みづくくるとは	は→わ　ゐ→い　づ→ず
つ	5	22	ふくからに　あきのくさきの　しをるれば	むべやまかぜを　あらしといふらむ	を→お　ふ→う　む→ん
つ	6	27	みかのはら　わきてながるる　いづみがは	いつみきとてか　こひしかるらむ	づ→ず　は→わ　ひ→い　む→ん
つ	7	32	やまがはに　かぜのかけたる　しがらみは	ながれもあへぬ　もみぢなりけり	は→わ　へ→え　ぢ→じ
つ	8	37	しらつゆに　かぜのふきしく　あきののは	つらぬきとめぬ　たまぞちりける	
つ	9	42	ちぎりきな　かたみにそでを　しぼりつつ	すゑのまつやま　なみこさじとは	ゑ→え
つ	10	47	やへむぐら　しげれるやどの　さびしきに	ひとこそみえね　あきはきにけり	へ→え
つ	11	52	あけぬれば　くるるものとは　しりながら	なほうらめしき　あさぼらけかな	ほ→お
つ	12	57	めぐりあひて　みしやそれとも　わかぬまに	くもがくれにし　よはのつきかな	ひ→い　は→わ
つ	13	62	よをこめて　とりのそらねは　はかるとも	よにあふさかの　せきはゆるさじ	あふ→おう
つ	14	67	はるのよの　ゆめばかりなる　たまくらに	かひなくたたむ　なこそおしけれ	ひ→い　む→ん
つ	15	72	おとにきく　たかしのはまの　あだなみは	かけじやそでの　ぬれもこそすれ	
つ	16	77	せをはやみ　いはにせかるる　たきがはの	われてもすゑに　あはむとぞおもふ	は→わ　ゑ→え　む→ん　ふ→う
つ	17	82	おもひわび　さてもいのちは　あるものを	うきにたへぬは　なみだなりけり	ひ→い　へ→え
つ	18	87	むらさめの　つゆもまだひぬ　まきのはに	きりたちのぼる　あきのゆふぐれ	ふ→う
つ	19	92	わがそでは　しほひにみえぬ　おきのいしの	ひとこそしらね　かわくまもなし	ひ→い
つ	20	97	こぬひとを　まつほのうらの　ゆふなぎに	やくやもしほの　みもこがれつつ	ふ→う　ほ→お

小倉百人一首における歴史的仮名遣い(囲んだ部分が歴史的仮名遣い)　の１～の２０

※　取り札には濁点「゛」は使われていないので注意しましょう。下線部は決まり字を示しています。

※　囲んだ部分は，現代仮名遣い（読み）を参考にして読みましょう。

みやびぃカルタ		百人一首	上の句	下の句	現代仮名遣い（読み）
の	1	3	あしびきの　やまどりのをの　しだりをの	ながながしよを　ひとりかもねむ	を→お　む→ん
の	2	8	わがいほは　みやこのたつみ　しかぞすむ	よをうぢやまと　ひとはいふなり	ほ→お　ぢ→じ　ふ→う
の	3	13	つくばねの　みねよりおつる　みなのがは	こひぞつもりて　ふちとなりぬる	は→わ　ひ→い
の	4	18	すみのえの　きしによるなみ　よるさへや	ゆめのかよひぢ　ひとめよくらむ	へ→え　ぢ→じ　む→ん
の	5	23	つきみれば　ちぢにものこそ　かなしけれ	わがみひとつの　あきにはあらねど	
の	6	28	やまざとは　ふゆぞさびしさ　まさりける	ひとめもくさも　かれぬとおもへば	へ→え
の	7	33	ひさかたの　ひかりのどけき　はるのひに	しづごころなく　はなのちるらむ	づ→ず　む→ん
の	8	38	わすらるる　みをばおもはず　ちかひてし	ひとのいのちの　をしくもあるかな	は→わ　ひ→い　を→お
の	9	43	あひみての　のちのこころに　くらぶれば	むかしはものを　おもはざりけり	ひ→い　は→わ
の	10	48	かぜをいたみ　いはうつなみの　おのれのみ	くだけてものを　おもふころかな	は→わ　ふ→う
の	11	53	なげきつつ　ひとりぬるよの　あくるまは	いかにひさしき　ものとかはしる	
の	12	58	ありまやま　ゐなのささはら　かぜふけば	いでそよひとを　わすれやはする	ゐ→い
の	13	63	いまはただ　おもひたえなむ　とばかりを	ひとづてならで　いふよしもがな	ひ→い　む→ん　ふ→う
の	14	68	こころにも　あらでうきよに　ながらへば	こひしかるべき　よはのつきかな	へ→え　ひ→い　は→わ
の	15	73	たかさごの　をのへのさくら　さきにけり	とやまのかすみ　たたずもあらなむ	を→お　へ→え　む→ん
の	16	78	あはぢしま　かよふちどりの　なくこゑに	いくよねざめぬ　すまのせきもり	ぢ→じ　ふ→う　ゑ→え
の	17	83	よのなかよ　みちこそなけれ　おもひいる	やまのおくにも　しかぞなくなる	ひ→い
の	18	88	なにはえの　あしのかりねの　ひとよゆゑ	みをつくしてや　こひわたるべき	ゑ→え　ひ→い
の	19	93	よのなかは　つねにもがもな　なぎさこぐ	あまのをぶねの　つなでかなしも	を→お
の	20	98	かぜそよぐ　ならのをがはの　ゆふぐれは	みそぎぞなつの　しるしなりける	を→お　は→わ　ふ→う

小倉百人一首における歴史的仮名遣い(囲んだ部分が歴史的仮名遣い)　み１～み２０

※　取り札には濁点「゛」は使われていないので注意しましょう。下線部は決まり字を示しています。

※　囲んだ部分は，現代仮名遣い（読み）を参考にして読みましょう。

みやびぃカルタ		百人一首	上の句	下の句	現代仮名遣い（読み）
み	1	3	たごのうらに　うちいでてみれば　しろたへの	ふじのたかねに　ゆきはふりつつ	へ→え
み	2	8	はなのいろは　うつりにけりな　いたづらに	わがみよにふる　ながめせしまに	づ→ず
み	3	13	みちのくの　しのぶもぢずり　たれゆゑに	みだれそめにし　われならなくに	ぢ→じ　ゑ→え
み	4	18	なにはがた　みじかきあしの　ふしのまも	あはでこのよを　すぐしてよとや	は→わ
み	5	23	このたびは　ぬさもとりあへず　たむけやま	もみぢのにしき　かみのまにまに	へ→え　ぢ→じ
み	6	28	こころあてに　をらばやをらむ　はつしもの	おきまどはせる　しらぎくのはな	を→お　は→わ
み	7	33	たれをかも　しるひとにせむ　たかさごの	まつもむかしの　ともならなくに	む→ん
み	8	38	あさぢ ふの　をののしのはら　しのぶれど	あまりてなどか　ひとのこひしき	ぢ→じ　ふ→う　を→お　ひ→い
み	9	43	あふことの　たえてしなくば　なかなかに	ひとをもみをも　うらみざらまし	ふ→う
み	10	48	みかきもり　ゑじのたくひの　よるはもえて	ひるはきえつつ　ものをこそおも	ゑ→え　へ→え
み	11	53	わすれじの　ゆくすゑまでは　かたければ	けふをかぎりの　いのちともがな	ゑ→え　けふ→きょう
み	12	58	やすらはで　ねなましものを　さよふけて	かたぶくまでの　つきをみしかな	は→わ
み	13	63	あさぼらけ　うぢのかはぎり　たえだえに	あらはれわたる　せぜのあじろぎ	ぢ→じ　は→わ
み	14	68	あらしふく　みむろのやまの　もみぢばは	たつたのかはの　にしきなりけり	ぢ→じ　は→わ
み	15	73	うかりける　ひとをはつせの　やまおろしよ	はげしかれとは　いのらぬものを	
み	16	78	あきかぜに　たなびくくもの　たえまより	もれいづるつきの　かげのさやけさ	づ→ず
み	17	83	ながらへば　またこのごろや　しのばれむ	うしとみしよぞ　いまはこひしき	へ→え　む→ん　ひ→い
み	18	88	たまのをよ　たえなばたえね　ながらへば	しのぶることの　よわりもぞする	を→お　へ→え
み	19	93	みよしのの　やまのあきかぜ　さよふけて	ふるさとさむく　ころもうつなり	
み	20	98	ひともをし　ひともうらめし　あぢきなく	よをおもふゆゑに　ものおもふみは	を→お　ぢ→じ　ふ→う　ゑ→え

小倉百人一首における歴史的仮名遣い(囲んだ部分が歴史的仮名遣い)　や１～や２０

※　取り札には濁点「゛」は使われていないので注意しましょう。下線部は決まり字を示しています。

※　囲んだ部分は，現代仮名遣い（読み）を参考にして読みましょう。

みやびぃカルタ		百人一首	上の句	下の句	現代仮名遣い（読み）
や	1	5	おくやまに　もみぢふみわけ　なくしかの	こゑきくときぞ　あきはかなしき	ぢ→じ　ゑ→え
や	2	10	これやこの　ゆくもかへるも　わかれては	しるもしらぬも　あふさかのせき	へ→え　あふ→おう
や	3	15	きみがため　はるののにいでて　わかなつむ	わがころもでに　ゆきはふりつつ	
や	4	20	わびぬれば　いまはたおなじ　なにはなる	みをつくしても　あは むとぞおもふ	は→わ　む→ん　ふ→う
や	5	25	なにしおはば　あふさかやまの　さねかずら	ひとにしられで　くるよしもがな	は→わ　あふ→おう
や	6	30	ありあけの　つれなくみえし　わかれより	あかつきばかり　うきものはなし	
や	7	35	ひとはいさ　こころもしらず　ふるさとは	はなぞむかしの　かにほひける	ほ→お　ひ→い
や	8	40	しのぶれど　いろにいでにけり　わがこひは	ものやおもふと　ひとのとふまで	ひ→い　ふ→う
や	9	45	あはれとも　いふべきひとは　おもほえで	みのいたづらに　なりぬべきかな	は→わ　ふ→う　ほ→お　づ→ず
や	10	50	きみがため　をしからざりし　いのちさへ	ながくもがなと　おもひけるかも	を→お　へ→え　ひ→い
や	11	55	たきのおとは　たえてひさしく　なりぬれど	なこそながれて　なほきこえけれ	ほ→お
や	12	60	おほえやま　いくののみちの　とほければ	まだふみもみず　あまのはしだて	ほ→お
や	13	65	うらみわび　ほさぬそでだに　あるものを	こひにくちなむ　なこそをしけれ	ひ→い　む→ん　を→お
や	14	70	さびしさに　やどをたちいでて　ながむれば	いづこもおなじ　あきのゆふぐれ	づ→ず　ふ→う
や	15	75	ちぎりおきし　させもがつゆを　いのちにて	あはれことしの　あきもいぬめり	は→わ
や	16	80	ながからむ　こころもしらず　くろかみの	みだれてけさは　ものをこそおもへ	む→ん　へ→え
や	17	85	よもすがら　ものおもふころは　あけやらで	ねやのひまさへ　つれなかりけり	ふ→う　へ→え
や	18	90	みせばやな　をじまのあまの　そでだにも	ぬれにぞぬれし　いろはかはらず	を→お　は→わ
や	19	95	おほけなく　うきよのたみに　おほ ふかな	わがたつそまに　すみぞめのそで	ほ→お　ふ→う
や	20	100	ももしきや　ふるきのきばの　しのぶにも	なほあまりある　むかしなりけり	ほ→お

3 小中学校で使用することができる統一的ルール（ちらし戦）

ここでは，小中学校で，主に行う「ちらし戦」の統一的なルールに関して紹介します。ちらし戦は，数人のチーム戦で行うことも可能で，枚数や人数を変更して行うことができます。また，競技かるたのルールにもつながる部分が多いので，覚えておくと競技かるたにも移行しやすいです。

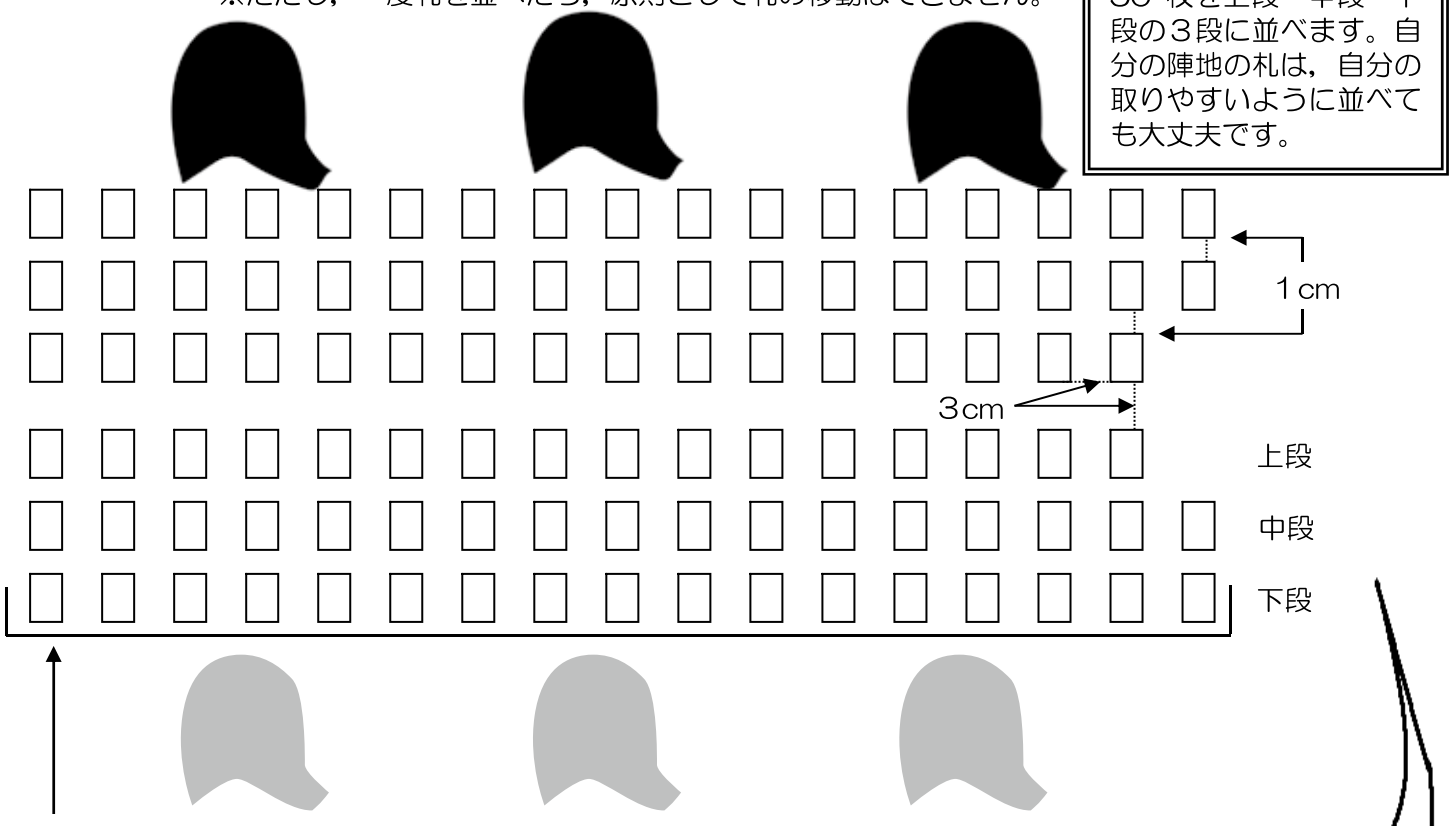
＜ちらし戦とは？＞

うつのみや百人一首で言う「ちらし戦」とは，１００枚の札を自分のチームと相手チームがそれぞれ３段に並べて，数人で取り合う戦い方のことです。場合によって，人数や取り方も少し違ってきますが，基本的には１００枚の札を自分のチームと相手チームに５０枚ずつに分けます。時間や人数などの都合から，枚数を変えてちらし戦を行うこともできます（本書ｐ４６～ｐ５１参照）。

1 札の並べ方

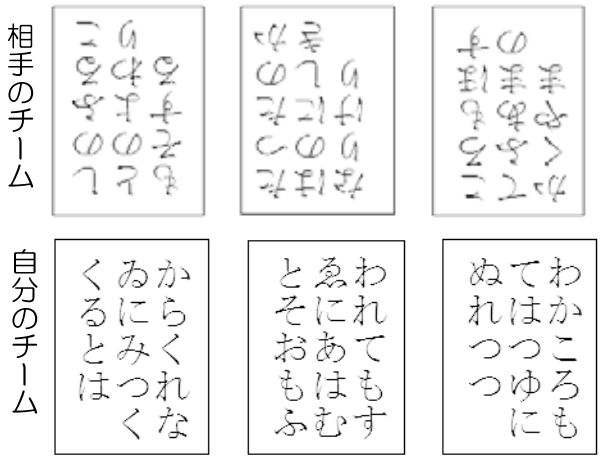
① ５０枚に分けた札をそれぞれのチームで３段に並べます。並べる順番は決まっていません。
② 札と札の間は縦１cm，横３cm くらいあけます。
③ 自分のチームと相手のチームとの間は３cm あけます。
※ただし，一度札を並べたら，原則として札の移動はできません。

50 枚を上段・中段・下段の３段に並べます。自分の陣地の札は，自分の取りやすいように並べても大丈夫です。

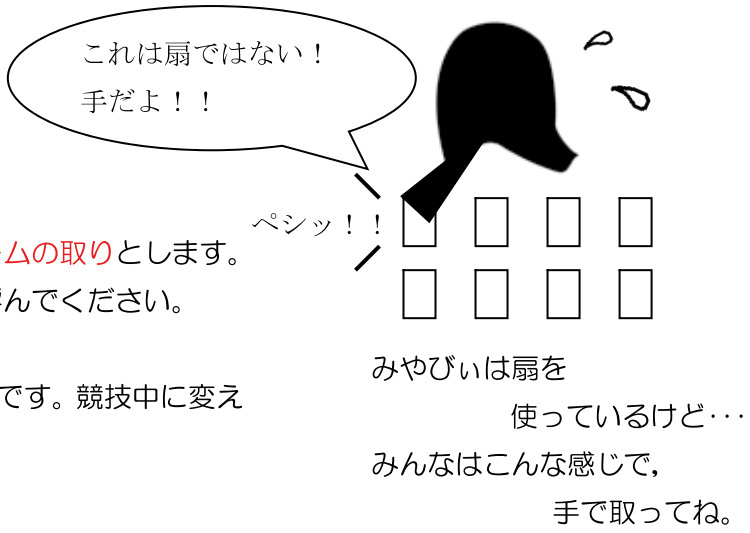


この幅は決まっていないが，１６～１８枚くらいを並べた長さがちょうどいいと思います。

＜札の並べる向きについて＞
札を並べるときは，文字が自分の方に見えるように並べます。相手も同じように並べるので，相手チームの札は自分たちには見えづらくなりますが，間違いではありません。



2　札の取り方

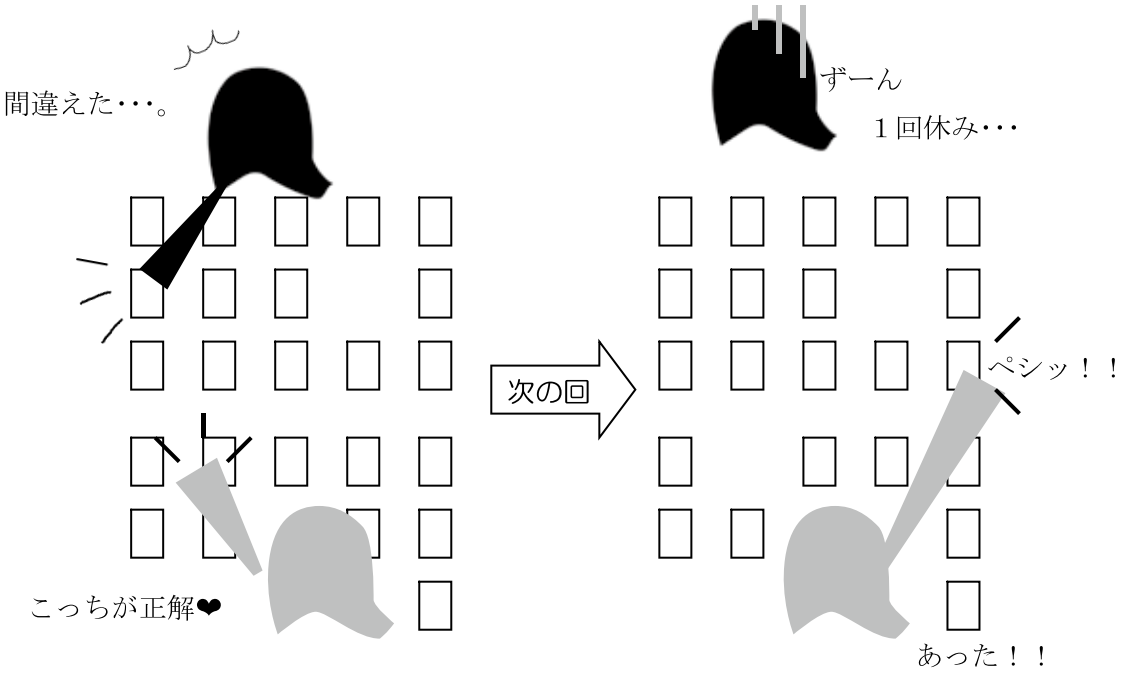


- 札をまとめて払って取る，払い手は禁止です。
- 詠まれた札１枚に直接触ってください。
- 早く札に触った人の取りとなります。
- もし，同時に取ったときは，札に近い方のチームの取りとします。
  ※話し合っても解決しないときは，先生を呼んでください。
  ※お互いに譲り合うのが大切です。
- また，札を取るときに使用できる手は片手のみです。競技中に変えることはできません。

お手つき

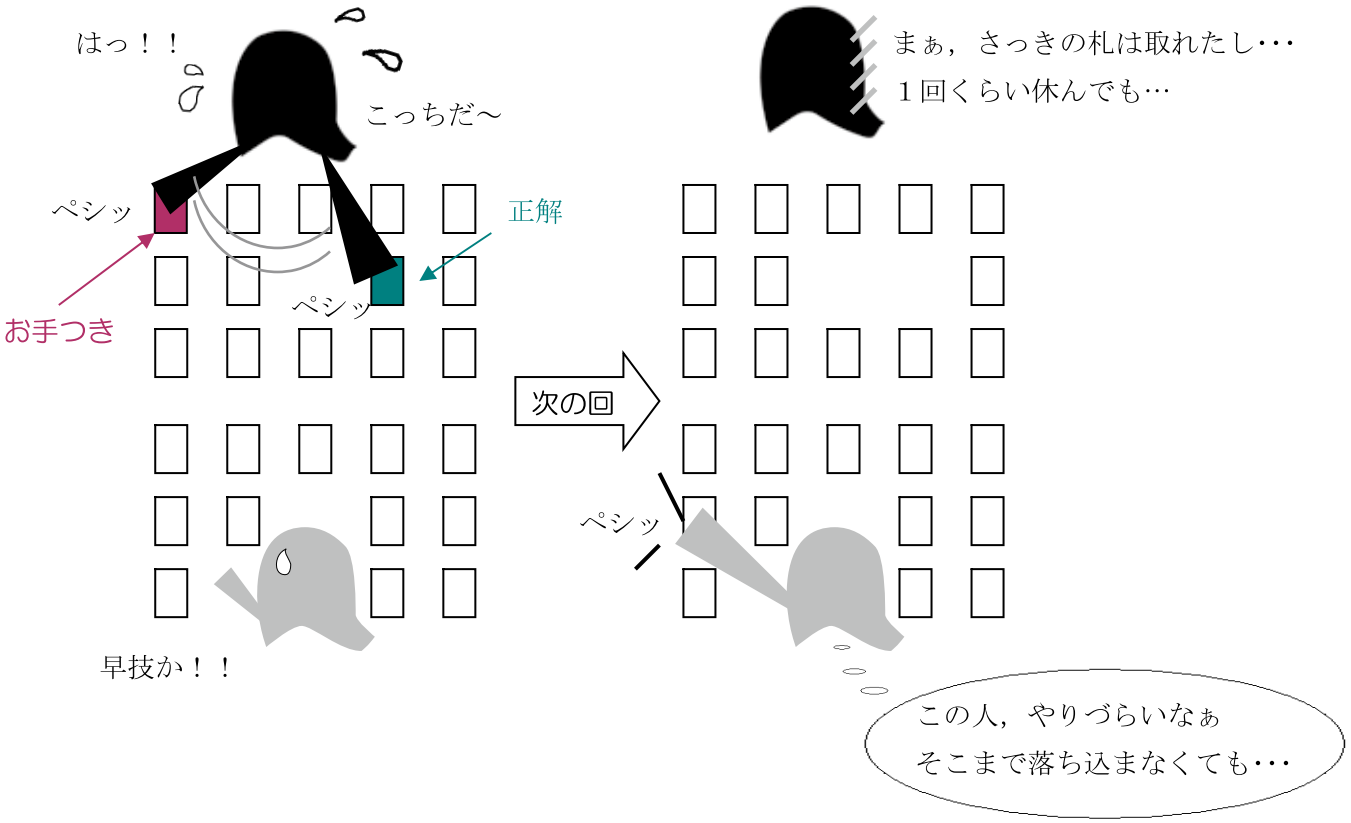
① 詠まれた札と違う札を触ってしまったら・・・次回１回お休みになります。
② お手つきをした後に正しい札を触った場合，正しい札はその人（お手つきした人）の取りになりますが，次回１回お休みになります。
※お手つきをしたら１回お休みになるだけで，相手から札はもらいません。
③ 休みの人が札を取った場合は，相手チームの取りとなります。

お手つき①の場合

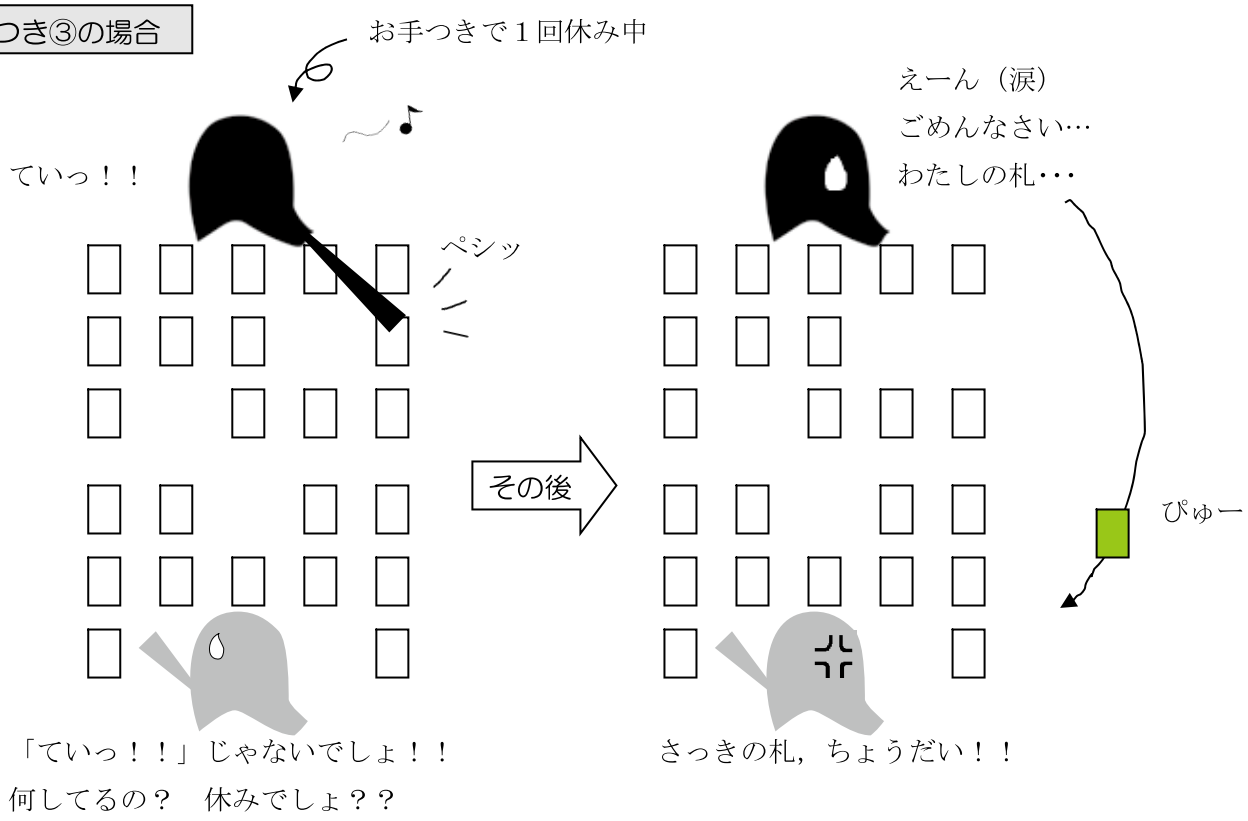


詠まれていない札を間違って１枚触ってしまったら，次回１回お休みになりますが，もし，詠まれていない札を２枚程度触ってしまっても，休みは次回１回だけです。
ただし，意図的に２枚以上を次から次へと，手当たり次第に触るのは違反行為になりますので，注意してください。

お手つき②の場合



お手つき③の場合

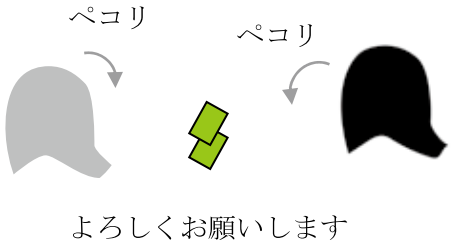


もし，休みなのに間違って札を取ってしまったら，謝りながら，すみやかに相手チームに渡しましょう。

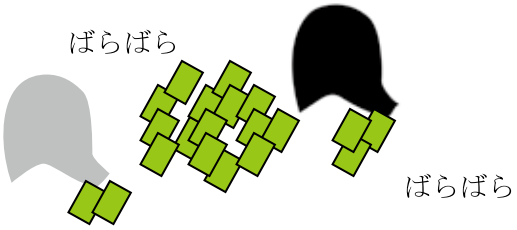
3　競技の進め方

※　ここでは都合上，簡略化した図を掲載しています
※　読み手はＣＤ，　審判は原則として先生が行います。

① 札を並べる前に，お互いに礼をします

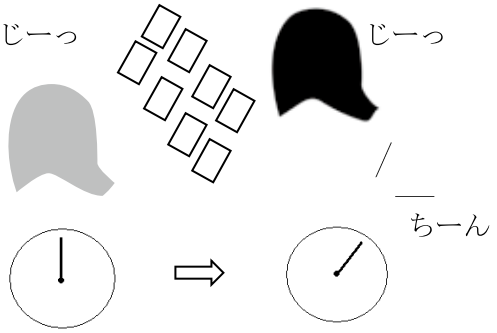


② 札を混ぜて，取って並べます



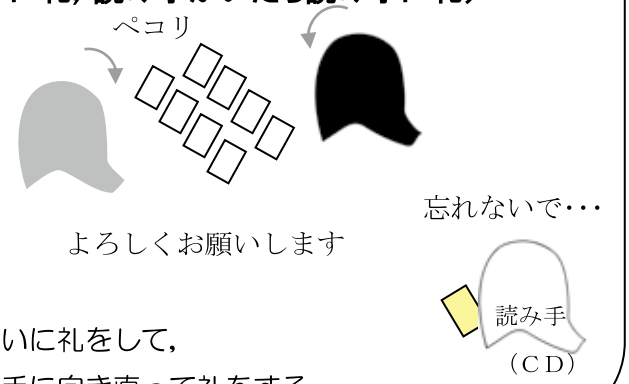
※札は裏面にして，よく混ぜてから取ってください

③ 暗記をします
（並べる時間を含めて5分間です）



５分経ったら，合図があります

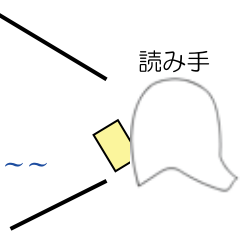
④ 始めの礼をします
（相手に礼，読み手がいたら読み手に礼）



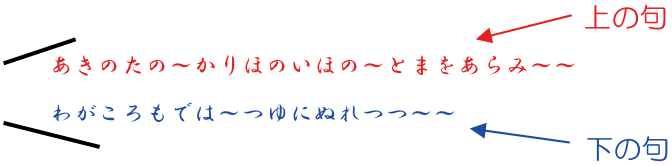
お互いに礼をして，
読み手に向き直って礼をする

⑤ 序歌が詠まれます

なにわづに～さくやこのはな～
ふゆごもり～～
いまをはるべと～さくやこのはな～
いまをはるべと～さくやこのはな～～～

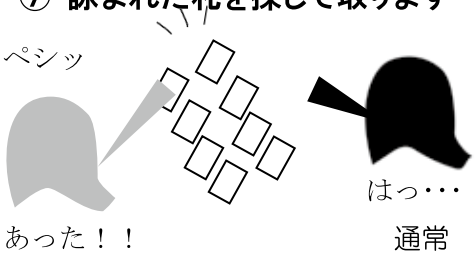


⑥ 札が詠まれます

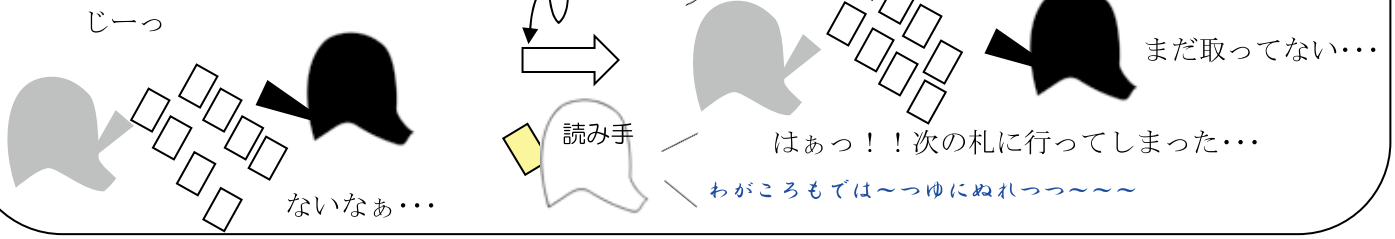


「いまをはるべと～さくやこのはな～～～」を詠んだ後に，
次の札が上の句から詠まれます。
２首目以降は前の札の下の句から詠まれます。

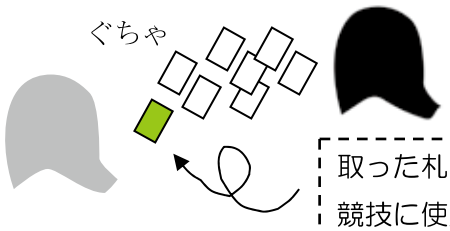
⑦ 詠まれた札を探して取ります



札を探し出す前に，次の詠みが始まってしまったら，
前の札を見つけたとしても取ることはできません。
見つけたときはそのまま並べておいてください。



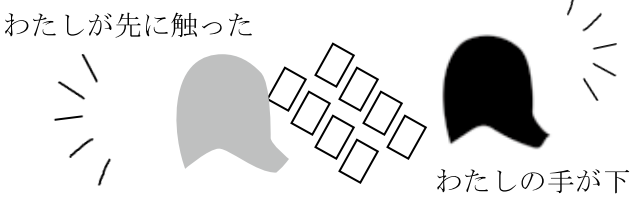
⑧ 並んでいる札が乱れたら，きれいに並べます



札を並べるときは，早く試合が始められるように
全員で協力してならべます

取った札は，出ていない札と区別するために裏返しておきます。
競技に使用している手と反対に置くと邪魔になりません。

⑨ どちらのチームが取ったのかが分からないときは，話し合いをしたり，先生を呼んだりします

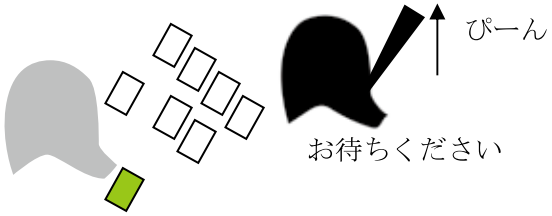




まぁまぁ。
それぞれの言い分を
言ってごらん。

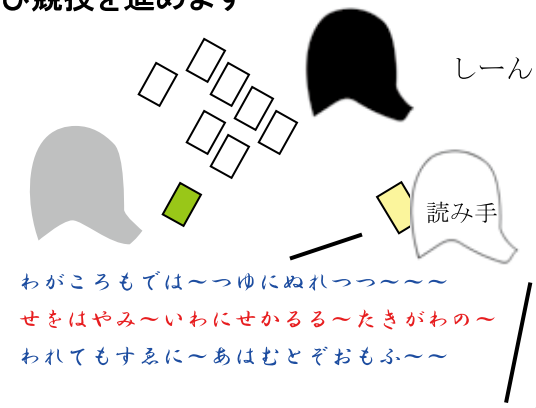
札をどちらが取ったのか，長い時間もめていると，その間，競技がストップしてしまいます。自分たちの集中力も途切れてしまいますし，他の選手にも迷惑なので，なるべく，もめないようにしましょう。
かるたは譲り合いが大切です。

⑩ ⑧，⑨のときは，手をあげて競技の進行を止めます



手をあげる人は，読み手や審判などに見えるように，ひじを伸ばして，しっかりあげます。

⑪ すべての対戦場所で手が下がったら，再び競技を進めます

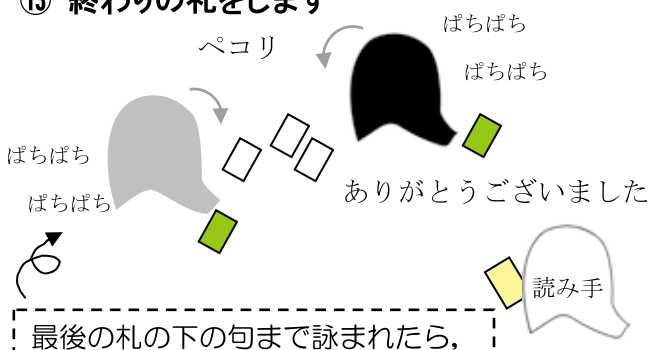


⑫ ⑥〜⑪を繰り返して，95首まで詠まれたら試合終了です



残り５首になったら合図があります。
１００首すべてを詠まないのは，
ケガをすると危ないからです。

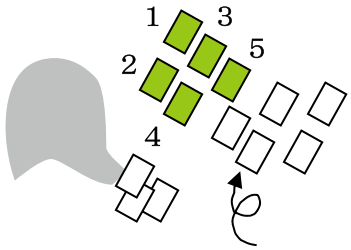
⑬ 終わりの礼をします



最後の札の下の句まで詠まれたら，
観客などは拍手をします

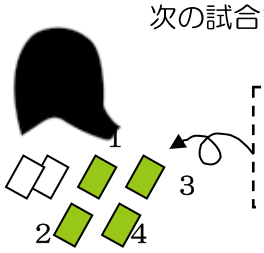
お互いに礼をしたら，読み手にも礼をします

⑭ 取った札の枚数を数えます



必ず５枚と取り残し分が残るので，その札は取った枚数に入れないでください

次の試合もあるので，全員で協力して札を数えます

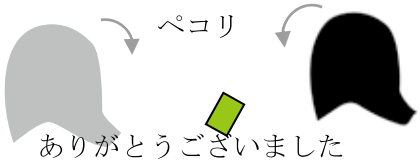


札を数えるときは，１０枚の束を作るようにすると早く数えられます

※ 札の数が合わない場合

かるたの競技ではよくあることなので，札が無いという報告があれば，全員で探します。

⑮ 最後にお互いに礼をします

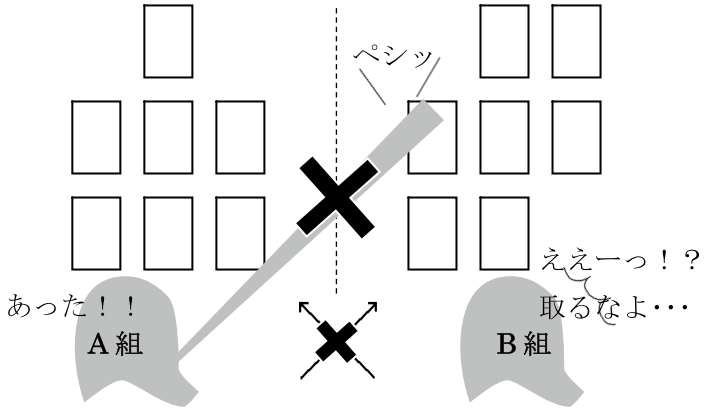


４　禁止事項

禁止事項１　違う組の札は取ってはいけません

Ａ組の人は，Ａ組の札だけを取ってください。同様にＢ組の人はＢ組の札だけを取ります。

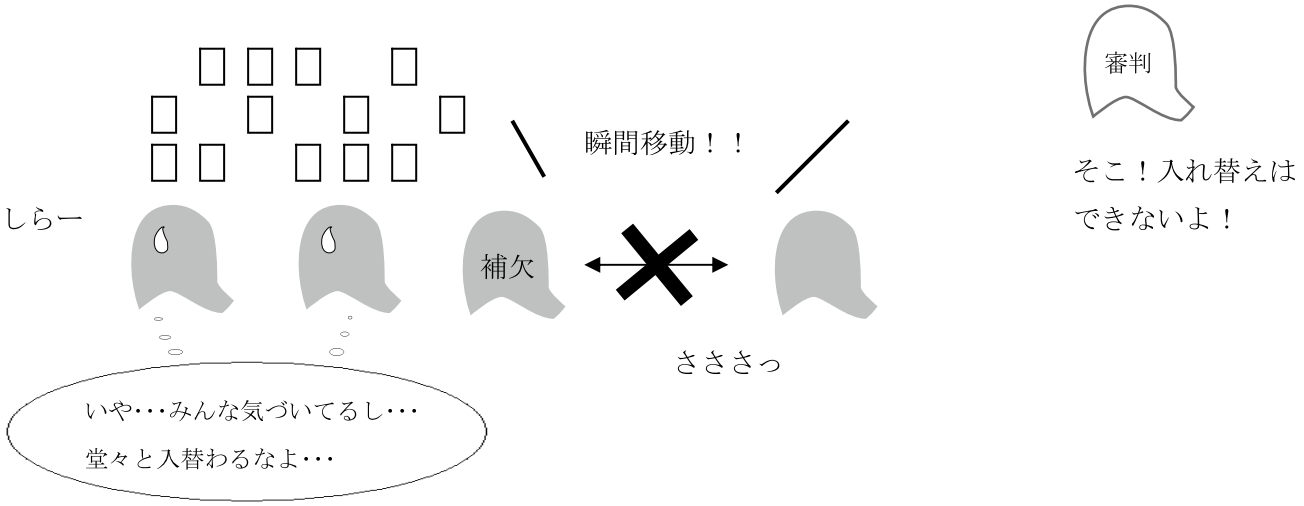
同じチームであっても，となり組の札を取れませんので注意をしてください。



禁止事項２　競技中に選手の入れ替えはできません

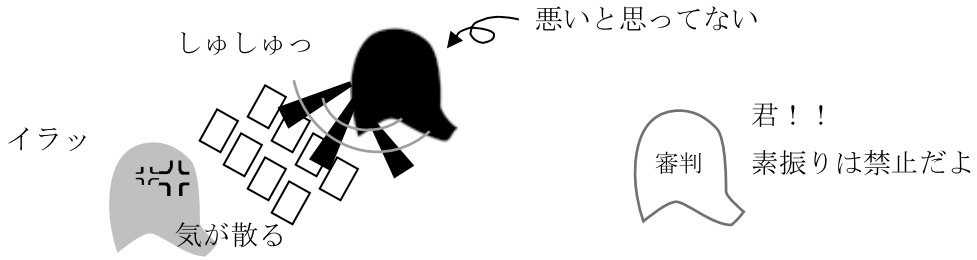
※　予選１回戦，予選２回戦などの試合ごとの入替えはできます。

※　ケガをしたり体調が悪くなったりした場合は，先生に申し出て，どうすればいいのか判断を仰いでください。自己判断で選手の入替えは絶対しないでください。



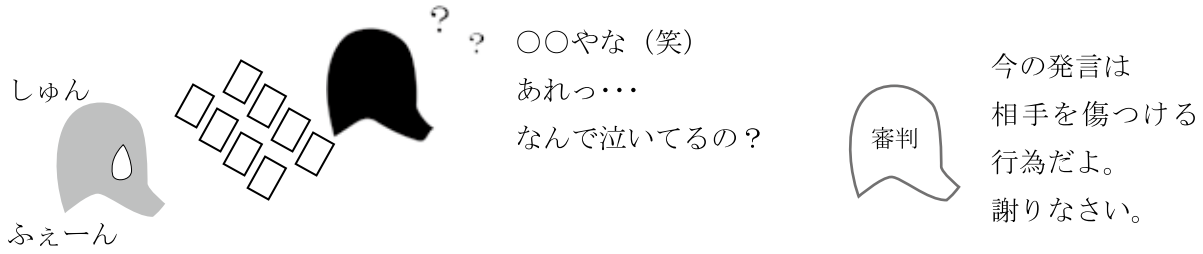
禁止事項３　暗記中は素振りはしません

暗記時間中の素振りは，暗記をしている相手への妨害行為となりますのでやらないでください。
注意をされたら速やかにやめてください。



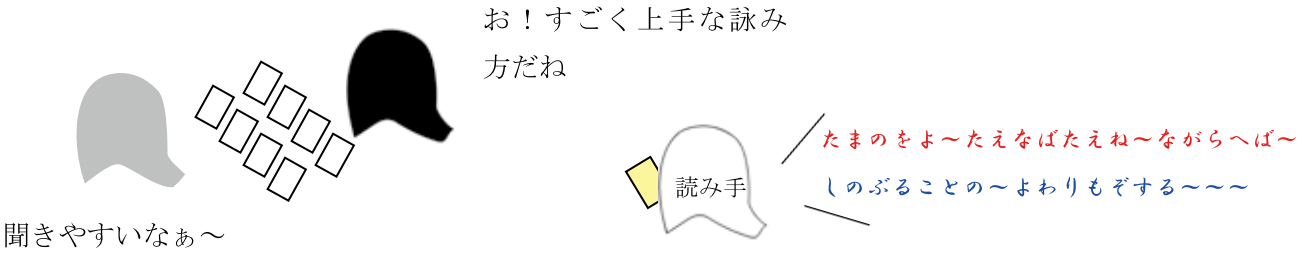
禁止事項４　試合中に相手を中傷しません

試合中に，相手を中傷するような発言・行動はしないでください。
中傷するような発言・行動とは･･･自分がやられて嫌だ・不快だと感じる発言や行動のことです。
注意をされたら，すぐに相手に謝りましょう。



禁止事項５　読み手のクレームは受け付けません

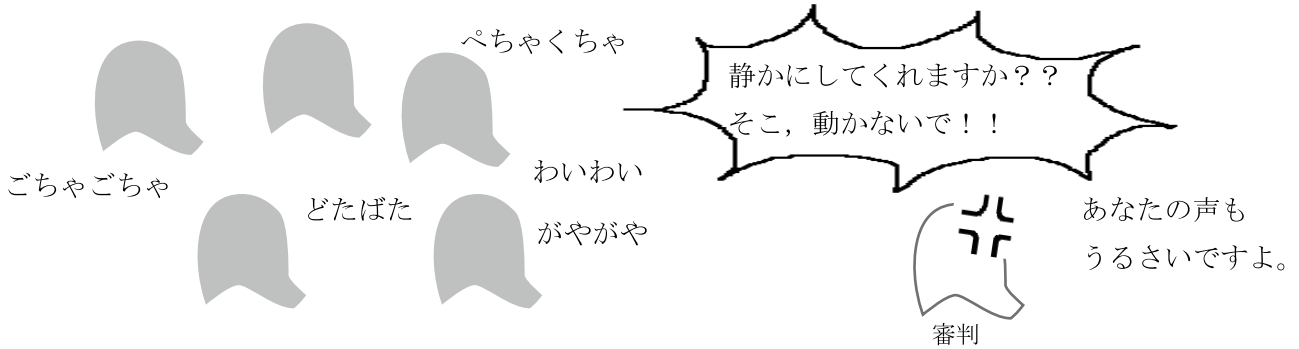
読み手の読みの癖や音の不明瞭さ，読み間違いについてのクレーム等は，受付けません。



禁止事項６　観戦するときは，静かにしてください

かるたは音が命です。読み手が詠み始めたら，物音を立てないように注意してください。話をすることはもちろんですが，歩く・動くなども厳禁ですので，詠みが始まったら動きを止めてください。

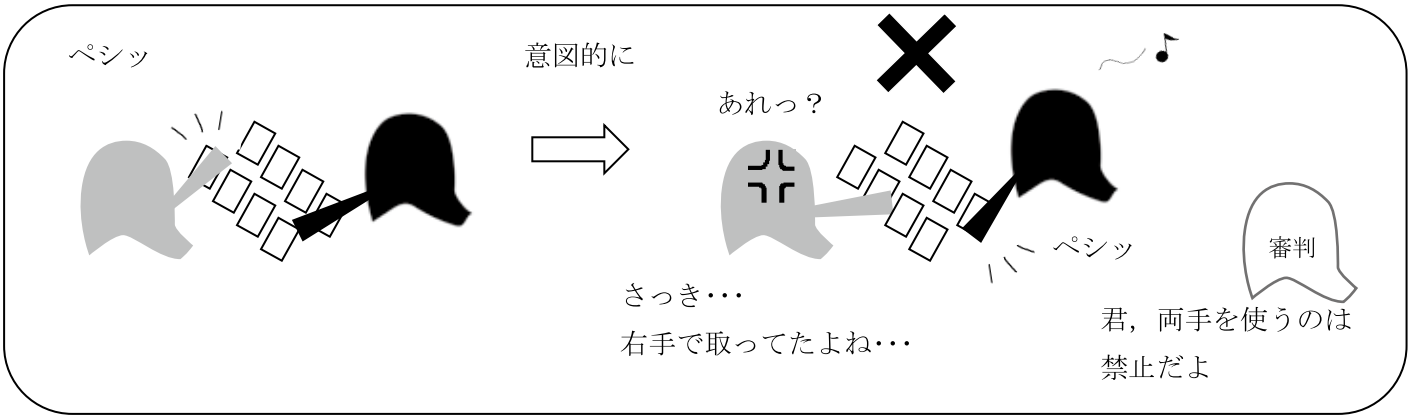
早めに競技が終わった場合も，静かに観戦してください。選手の方も例外ではありませんので注意されないようにしてください。

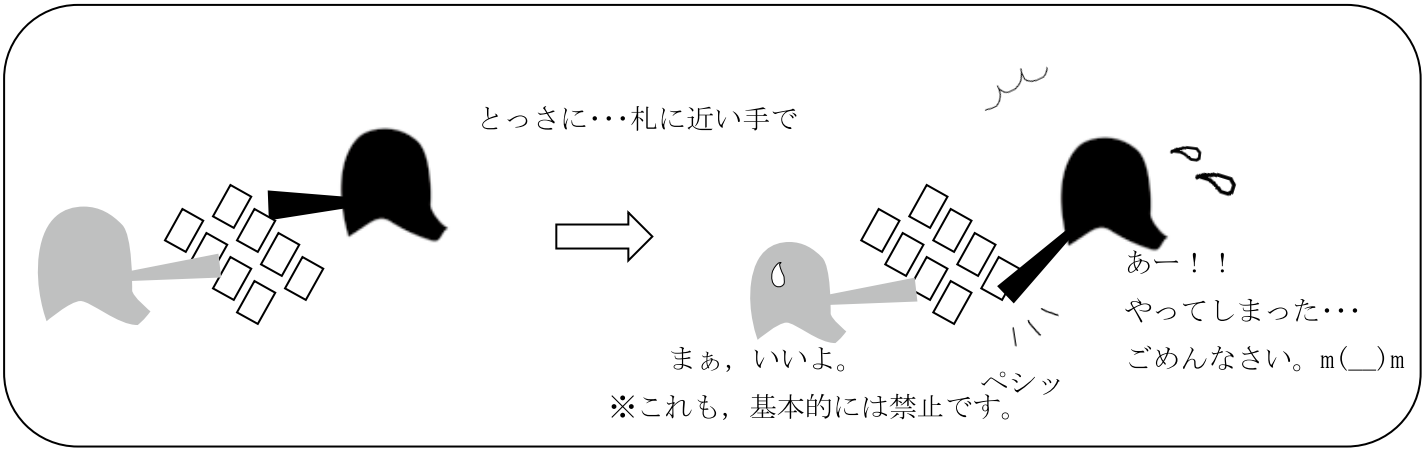


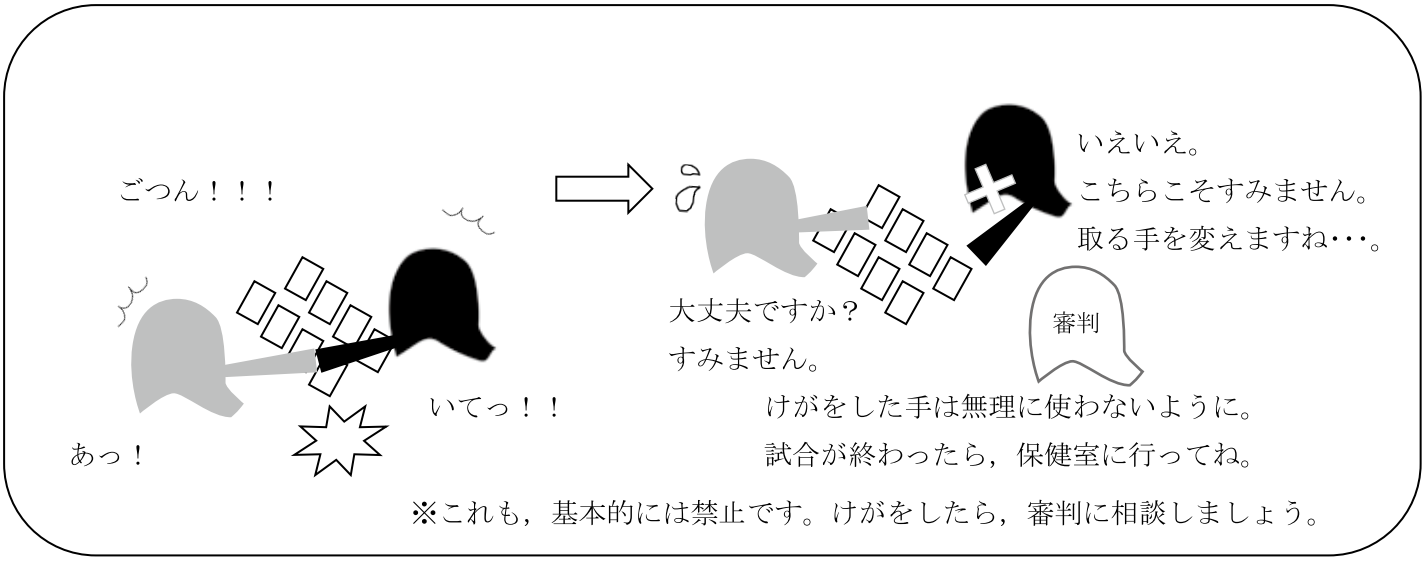
禁止事項７　競技中は，取る手を変更しません

競技中，札を取るときに使用できる手は片方の手だけです。右手で取っていたのに，途中で左手に変えることはできません。もし，右手で取っていた人が左手で札を取ったときは，お手つきなどの罰則がある場合もあります。

※ただし，競技中に手がぶつかり，つき指などケガをした場合は，すみやかに先生に申し出てください。
その場合に限り，使用する手の変更を認める場合があります。







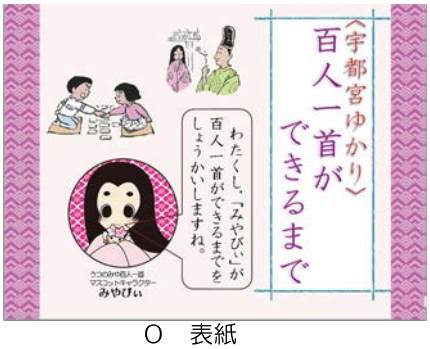
4 「宇都宮ゆかり」　百人一首成り立ち物語　教材

ここでは，百人一首が宇都宮ゆかりであるということを説明する物語教材について説明します。

宇都宮と百人一首が，深い関わりがあることを知ってはいても，児童・生徒に分かりやすく説明するのは難しいと思われます。そこで，小学校低学年でも分かるような，蓮生と定家の関係や，小倉山荘百人一首成立までの提示資料を作成しました。

本教材は，百人一首に取り組む前の導入教材として，PowerPoint で作成した５分程度でできる提示資料です。会話科や国語科の時間の導入や朝の学習の時間など，いろいろな時間での活用することができます。

○　教材について（低学年用）



０　表紙



１　導入



２　頼綱紹介



３　頼綱から蓮生



４　蓮生と定家



５　蓮生の娘と定家の息子の結婚



６　屋敷のふすまに和歌



７　蓮生の依頼



８　定家が 100 首編纂



9　小倉百人一首のはじまり



10　最後

○　教材について（中学年以上）



0　表紙



1　導入



2　頼綱紹介



3　頼綱から蓮生



4　蓮生と定家



5　蓮生の娘と定家の息子の結婚



6　屋敷のふすまに和歌



7　蓮生の依頼



8　定家が 100 首編纂



9　小倉百人一首のはじまり



10　最後

本教材は，「宇都宮の歴史と文化財」のホームページでダウンロード可能となっています。
本書 p52 の「４　本調査研究で紹介されている指導事例や教材について」を参照してください。

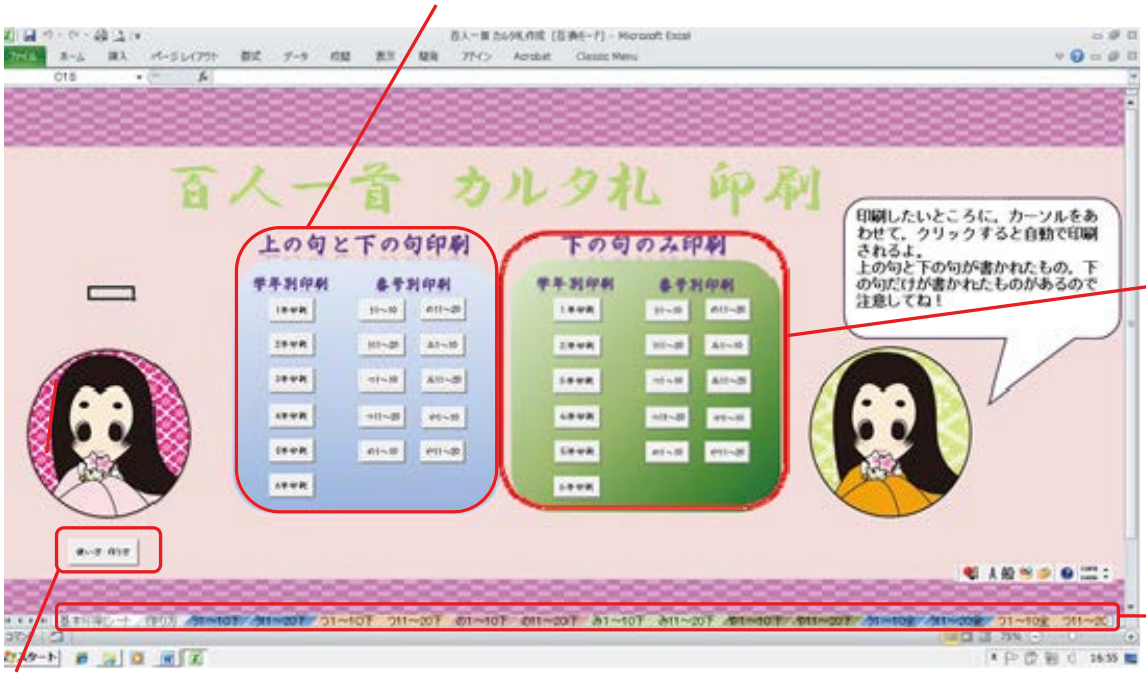
5 簡単カルタ札作成教材

ここでは，簡単にカルタ札を作成することができる教材を紹介します。学校によって，百人一首カルタ札の保有数に差があります。そのため，満足いく指導ができなかったり，効果的な指導を行うことができなかったりする場合が考えられます。

そこで，学校のプリンターや印刷機を使って，簡単に百人一首のカルタを複数作成することができるように，カルタ札をデータ化しました。カルタ札を紛失してしまったり，破れてしまったりしてもすぐに対応することができます。さらに，児童・生徒の実情に合わせて，文字の字体やレイアウトなどを簡単に変更することができます。

○使い方

札に上の句と下の句がのっているものを印刷したい場合に使用



下の句のみを印刷したい場合に使用

タブをクリックすると，カルタ札の画面に切り替わる。

クリックすると，使い方や作り方の場面にうつる。

○（例）下の句のみで，２年生で使用するカルタ札を印刷したい場合。





ここにカーソルを合わせて。左クリックを１回する。

1　下の句のみ印刷にある，２年印刷のボタンにカーソルを合わせます。

2　カーソルを合わせると，手の形になります。

3　手の形になったら，左クリックを一回します。クリックをすると，指定されたカルタ札が自動で印刷されます。カルタ札の画面に切り替わり，再びもとの画面に戻りますが，印刷はされています。
※　何度もクリックすると複数印刷されてしまうので気をつけてください。

4　印刷されたものを切り離し，カルタ札として使用してください。

※クリックをすると，自動的に下のようなカルタ札の画面に移動し，自動で印刷されて，もとの画面に戻ります。





本教材は，「宇都宮の歴史と文化財」のホームページでダウンロード可能となっています。
本書 p52 の「４　本調査研究で紹介されている指導事例や教材について」を参照してください。

5 百人一首保護者啓発資料

ここでは，保護者に配布する「百人一首保護者啓発資料」について紹介します。

百人一首を会話科のことばの時間で取り組むにあたり，和歌を覚えたり暗唱したりすることが必要になってきます。学校の会話科の時間だけでは，十分な効果を得られない場合，家庭からの協力を得ることで，より効果が上がります。しかし，百人一首が会話科のことばの時間の授業で行われているということを知らなかったり，百人一首を取り組むことで得られる学習効果などを知らなかったりと，なかなか保護者の協力を得るのが難しい場合も考えられます。

そこで，百人一首に対する保護者の理解を深めると共に，百人一首を取り組むことで得られる学習効果などを説明した資料の雛形を作成しました。資料を作成しようと思っても，レイアウトや文章校正，イラストなどに手間がかかることから，資料を作成するのが難しかったり，十分な時間が取れなかったりする実情があるので，雛形を参考に文章を変更したり，クラスで百人一首を行っている様子の写真を載せたりすることで，容易に保護者啓発資料を作成することができるようにしました。

○資料について

百人一首に取り組むことで得られる効果



百人一首のルールやきまりごとについて

百人一首が簡単に取り組めることの説明

百人一首に取り組んでいる様子の写真やコメントなど

本資料は，「宇都宮の歴史と文化財」のホームページでダウンロード可能となっています。
本書 p54 の「４　本調査研究で紹介されている指導事例や教材について」を参照してください。

Ⅲ　百人一首指導の実践・活動例

1　クラスでちらし戦を行う際の授業実践例

ここでは，「みやびぃ百人一首歌詠み（p３）」教材を使用した，クラスでちらし戦を行う授業実践例を紹介します。「宇都宮ゆかり　百人一首の成り立ち物語教材（p１９～p２０）」によって，宇都宮と百人一首の関係をしっかりと捉えさせたあと「う」の２０枚を使って２人対戦のチラシ戦を行った。

（４人以上も基本的にやり方は同様である）

①準備：みやびぃ百人一首学級かるた・ＴＶにつないだパソコン・読み札チェックの表示とマグネット



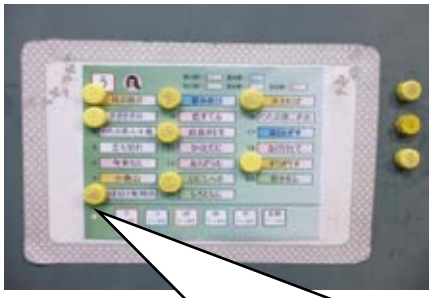
ＴＶにつないだパソコン
『みやびぃの百人一首詠み』起動



・『みやびぃの百人一首』「う」の２０枚を並べる。
・２人対戦のためお互い１０枚ずつを向い合せて並べた。



『みやびぃの百人一首詠み』うを起動させマウスでクリックしながら対戦を開始した。





詠み終えた札の掲示にマグネットを置いていく。

注：読み札チェックの表示とマグネットを準備した理由
『みやびぃの百人一首詠み』には「ランダム詠み機能がない」ため児童が一度クリックした読み札を再びクリックすることのないよう確認の掲示

②児童の実践









マウスのクリックは児童でも簡単にできる。授業では，教師がマウスのクリックとマグネット掲示がやり，休み時間でもパソコンを起動しておけば児童は自分たちでチラシ戦を楽しむことができる。

みやびぃ百人一首学級かるたが，各クラスで十分に確保できない時のために

②準備：みやびぃ百人一首学級かるた（１セット）・５色のカラーシール

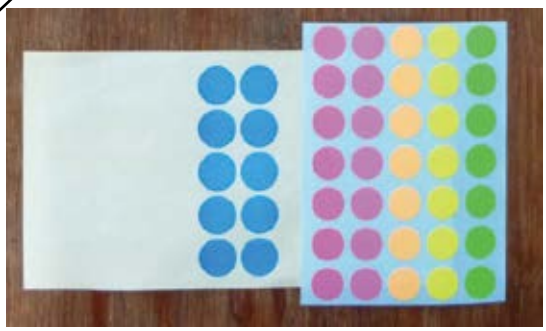
ア：５色百人一首・市販の百人一首を用意

イ:みやびぃ百人一首学級かるたの裏面にシールを張る。



向かって左から「５色百人一首」「市販の小倉百人一首」「みやびぃ百人一首学級かるた」





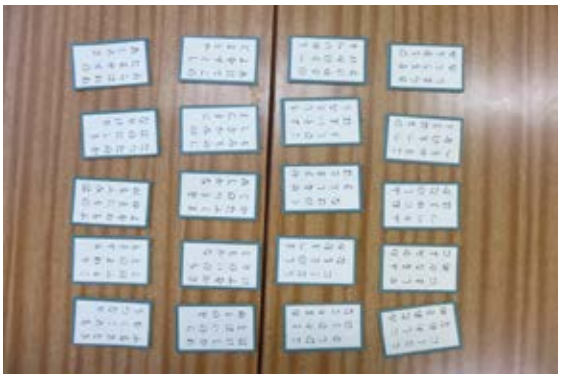
みやびぃ百人一首学級かるたの「う」「つ」「の」「み」「や」別に５色のカラーシールに分けると良い。

★５色のカラーシール（例）★
〇青シール「う」〇ピンクシール「つ」
〇黄シール「の」〇緑シール「み」
〇オレンジシール「や」



シールを裏面に張って並べた「５色百人一首」

５色百人一首の場合は，取り札に色がついているため，に札がカラフルで低学年児童には良い印象を受けた。市販の小倉百人一首は，札も厚くより本格的に百人一首に取り組めた。



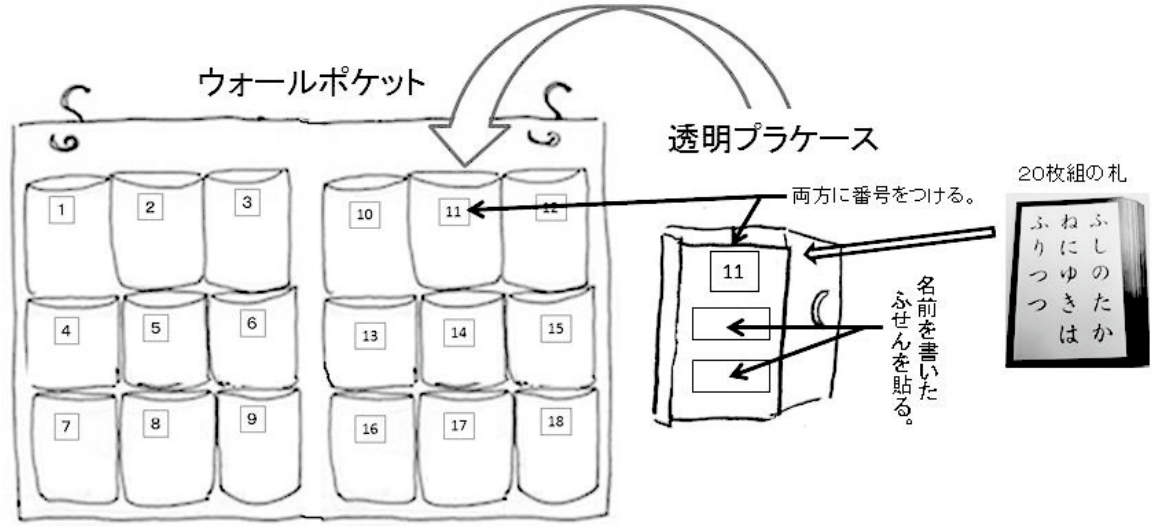
シールを裏面に張って並べた「市販の小倉百人一首」

2 隙間時間で低学年でもできる百人一首指導の工夫

ここでは，授業の時間だけではなく，ちょっと空いた隙間の時間で，小学校低学年でもできる活動例を紹介します。百人一首を会話科の時間だけで行おうとしても，時間が限られているため難しいです。そこで，「１００枚覚えるのが大変だ」，「試合時間がかかりすぎる」といった，実施する上で障壁となってきたことを克服するため，「短時間でみんなが熱中し，クラスがまとまる」指導を行うことができるように工夫しました。

（１）準備物　100 枚を 20 枚ずつにした札（みやびぃかるた）を用意します。

下の図のように，ウォールポケットに，１セット分を透明プラスチックケースに入れた状態で収納すると，出し入れや確認がスムーズにできます。（箱に入れたり，輪ゴムで束ねたりするよりばらばらになりにくいです。透明プラスチックケースは１００円ショップで名刺整理用に売られているものを使用しました。）



（２）行う時間　　隙間時間で毎日行うと良いです。

２０枚ずつの札で行うため，慣れると１試合３分程度で行うことができます。毎日試合があるからこそ，勝てなくても明日こそはがんばろう，上達のために覚えようと思うようになります。

時間がある時にたくさんするというのではなく，毎日，試合を行うようにします。したりしなかったりすると，よけいに勝ち負けにこだわる児童が出ます。

（３）指導上の配慮　　力が合う児童が対戦できるようにします。

試合をして，だいたい力が同じ児童同士で試合ができるように，入れ替えをします。対戦相手の入れ替えがあるからこそ，上達するために覚えようという気になります。

ただし，級が学級のどこかにずっと掲示されていて，そのことが児童の心の重荷になることはよくありません。そこで，プラケースには名前の書かれた付箋が貼ってありますが，試合が終わったらウォールポケットごと教師の棚にしまうようにし，児童の前向きな意欲を保てるよう配慮しました。

（４）継続していくための配慮　　「読み手」の配慮を継続します。

毎日百人一首を継続していくと，マンネリ化して意欲が下がってくることがあります。マンネリを防ぐ手立てにはいろいろありますがが，「読み手」の配慮は続けていきたいところです。

低学年で初めたばかりの頃は「下の句」は２度繰り返しゆっくり読んであげることが効果的です。また，幼い子の特性として「覚えると得意気になる」ところがあるので，学級の大半の児童が慣れるまでは札を変えないで続けるというのも良いようです。

慣れてくるにつれて，下の句は１回しか読まないことをだんだん増やし，読む速さも児童の実態に合わせて調節すると，やる気になってきます。みやびぃかるたを用いるときは「みやびぃかるたの「う」はバッチリ」といった雰囲気が出てきたら札の変え時になります。札を変えたときからどんどんやる気が上がってきます。

（５）毎日行うことで得られる効果

① 児童が熱中します。
② 教室中がまとまります。
③ 朝の５分間にかるたをすると，一日中，教室がおだやかに安定します。
④ 児童が「ルール」を守り，マナーを守るようになります。
⑤ 「和歌を覚える」ようになります。
⑥ 「和歌」という日本文化にふれて知識が広がり，「ことば」「リズム」に敏感になります。

3 低学年への取り組ませ方について

ここでは，はじめて百人一首に取り組む小学校低学年における学習活動の例を紹介します。

多くの低学年の児童にとって，会話科のことばの時間が，初めて百人一首に触れる機会となります。そこで，低学年の児童が，百人一首に抵抗なく取り組むことができるように「坊主めくり」や「ちらし取り」などのゲーム性の高いものを取り入れることで，より百人一首に親しむことができると考えました。

特に絵札のみを使用する「坊主めくり」は簡単なルールなので，はじめて触れる児童にも取り組みやすいです。さらに，「天皇札」のルールを加えたりすることで，飽きずに続けられます。

また，いきなり試合の形式で行うことはできないので，「かるた取り」と同じ方法の「ちらし取り」で百人一首をすると，ゲームとして「1 枚でも多く札を取れば勝つ」という百人一首の基本的なルールを理解することができます。

（1）「坊主めくり」・・・２人以上何人でも可。（多すぎない方が楽しくできるように思われます。）

① よく切った絵札１００枚を用意し裏返しにして２～３の山にして真ん中に置き，それを囲むように円く座る。

② じゃんけんをして，札をめくる順番を決める。（時計回りが分かり易い）

- 最初の人から 1 枚ずつ札をめくる。
- めくった札が，「男性札」，「女性札」が出たら，表を上にして真ん中に置く。
- 「坊主札」が出たら，真ん中に出ている札を全部自分の札にする。

③ 最後に札が一番少ない人が勝ち。

※ 「坊主めくり」にはいろいろなやり方があるが，まだ大きな数を数えることに慣れていない１年生には，「札が少ない人が勝ち」というルールの方が，勝敗が分かり易い。

【天皇札のルールを加えた方法】

① よく切った絵札１００枚を用意し裏返しにして２～３の山にして真ん中に置き，それを囲むように円く座る。

② じゃんけんをして，札をめくる順番を決める。（時計回りが分かり易い）

③ 最初の人から 1 枚ずつ札をめくる。

- めくった札が，「男性札」，「女性札」が出たら，自分の前に表を上にして置く。
- 「坊主札」が出たら，今まで集めた札を全部真ん中に返す。
- 「天皇札」が出たら，全員の札と坊主をひいて返された札を全部とることができる。

④ 最後に持ち札が一番多かった人が勝ち。

※ 他にもいろいろなやり方がある。

※ 自分たちでルールを決めて遊んでもおもしろい。

（2）「ちらし取り」・・・読み手１人（教員），取る人は２人以上何人でも可。

★10～２０枚を使うときは３～４人（慣れるまではこのくらいの人数が楽しくできる。）

★３０枚以上を使うときは，６人～８人位が札を囲んで円く座るのにちょうどいい

① かるたのようにばらばらに札を適当に置き，それを囲んで座る。

② 読み手は，読み札を上の句から下の句まで（下の句は２回繰り返して読む。）全部読む。取る人は，読みに従って下の句が書いてある取り札を取る。取る人は，読み手が歌を読み終わる終わる前でも，下の句が分かったら札を取ることができる。

③ お手付きをしたら，一回休み。（休みの人は，両手を頭に乗せると分かり易い。）

④ 読まれた札を誰かが取ったら，読み手が次の札を読む。
これを繰り返す。

⑤ 取り札がなくなったら終わり。

⑥ １番多く札を取った人が勝ち。（けんかになりそうなときは，１枚残して終わりにするとよい。）
※１０枚から始め，覚え方を見ながら１０枚ずつ札を増やしていくと抵抗が少なく楽しめる。









4 百人一首大会を開こう（クラス編）

ここでは，高学年以上で学級活動の時間等に「百人一首クラス大会」を開く場合の実践例を紹介します。

学級活動で百人一首大会を開くことで，クラスの一人一人が生き生きとし，豊かな人間関係づくりを充実させることができます。大会を開くには，ルールが必要となります。

うまく運営するためにはどのようなルールを提示したらよいか，時間配分はどのようにしたらよいか，どのような賞をつくったらよいかなど，計画委員を中心に児童と話し合って進めていくことが大切です。

クラス全員が，大会の成功に向かって頑張ることで，自主的・自治的な力を育てたり，ルールやマナーを守ったりすることの大切さを育てることになります。そして，こうした経験が百人一首でのカルタ取りを楽しみ，百人一首に親しみをもつことにつながっていきます。

○ 活動の流れなど

	活動の流れ	留意点等
１	・はじめのことば　「これから学級活動を始めます」 ・今日の活動テーマは　「百人一首大会を開こう」です。 ・活動のねらいは。「百人一首大会を通して，クラスが仲良くなり，ルールやマナーを守れるようになることです。」	・事前にかるたの〇を使うのかを伝え，練習できるようにしておく。 ・個人の活動のねらいを，学級活動ノートに書き，ねらいを意識して活動できるようにする。
２	・ルールの説明 「かわごとに向かい合います」「〇のカードを出します」「〇枚ずつ相手に渡します」「取りやすいように並べます」「お手付きは一回休みです」「必要のない話をしたら，１回休みです」「あいさつをしっかりします」	・ルールについては，事前に板書資料を提示しておき，共通理解を図っておく。 ・教師から，楽しく大会を開くために，クラス全員がルールやマナーを守ることが大切であることを助言する。
３	・一回戦を始めます。 「読み手に礼」「互いに礼」「お願いします」 ・「いまをはるべとさくやこのはな」	・同時に手が伸びた場合は，小さな声でじゃんけんをし，進行を妨げないように指導する。
４	・「枚数を数えます」「記録票に記入します」「あいさつをします」「ありがとうございました」「勝った人は前に移動します」「負けた人は後ろに下がります」	・４人グループで相手を変える場合は，勝った者同士，負けたもの同士になるようにする。 ・他にローテーションをする方法もある。
５	二回戦を始めます。 「読み手に礼」「互いに礼」「お願いします」 ・「いまをはるべとさくやこのはな」	・一回戦でよい活動をしていた組を称賛する。 ・１時間内に３回戦程度行える。
	（三回戦省略）	
６	「集計をしてください」「終わった人は，前に出してください。」 「百人一首大会の結果を発表します。」 「第３位，第２位，第１位」 入賞者に一言いただきます。 活動の振り返りを書きましょう。 ・楽しく百人一首ができた。 ・ルールを守れた。	・計画委員が，主体的に活動できるように支援する。 ・入賞した友達に，心より拍手が送れるように助言する。 ・計画委員が，自分たちで賞を考えてもよい。 ・教師が意図的に指名し，よさが認め合えるようにする。
７	先生の話 ・「先生が百人一首を初めてやったのは～」	・教師の経験を話し，百人一首にさらに興味がもてるようにする。 ・活動のねらいを意識して取り組んでいた児童を称賛し，楽しさを共感できるようにする。

○　ルールの資料例

ルール
○　仲良くカルタ取りをする。
○　読み手や相手にあいさつをする。
○　必要のない話はしない。
○　どちらが取ったか迷ったらじゃんけんで決める。
○　勝っても負けても相手のことを考えて行動する。
○　得意札を取るようにがんばる。
○　大会が成功できるように進行に協力する。

○　集計表例

百人一首大会集計表

年　　組　名前

回	対戦相手	勝ち負け○×	枚数
1			
2			
3			
合計			

○　活動の様子



読み手の声を集中して聴き，楽しく取り合う様子が見られました。取った枚数が多い順位に２回戦，３回戦の組み合わせを行うことにしました。枚数が多い順位，勝敗数で順位を決めました。賞を工夫し，折り紙のメダルをプレゼントするなど，活動盛り上げていました。

百人一首をもっと覚えたいという意欲とともに，次の大会開催への要望も聞かれました。





初めのうちは，単なるカルタ取りと考えていた児童も，大会を開くうちに得意札を増やしたいと興味を深めていきます。また，札を取り合うことで，友達とその場を共有し，相手のよさを認めたり楽しんだりすることが自然とできるようになります。

こうした活動を繰り返す中で，読み手を進んで引き受ける児童がでてくるなど，百人一首のリズムや語感に進んで親しむ様子が見られ，次の活動へのバリエーションが増えていきます。

対戦相手の組み方は，幾通りも考えられます。グループ戦や代表者戦，トーナメント戦など児童と相談しながら，活動の楽しさを存分に味わうことができるようにすることがポイントです。

ぜひクラスに，百人一首の学級文化を作ってみてください。

5 会話科以外の時間で行う百人一首の活動例

ここでは，会話科以外の時間（クラブ活動の時間等）で行う百人一首の活動例を紹介します。

百人一首を通して，望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図り，集団の一員として協力しながら活動する児童の育成が期待できます。何よりも活動の工夫により児童の関心意欲が高まり，自主的，実践的な態度を育てることができます。

○ 場の工夫

フロアマットをしいて，正座してできるようにすると，気分が一層盛り上がります。和室を備えている場合，そちらの利用もおすすめです。畳はより本物に近く，児童のやる気もアップしますよ！





○ トロフィーやカップの利用

トロフィーやカップなどを用意して，その日の優勝者（枚数が一番多かった者や級ごとに行っている場合，最高位の者）に渡すと励みになります。プラスチック製のカップは 1000 円前後で購入できます。

トロフィーやカップは次のクラブまでの 1 週間，優勝者のいる学級に飾っておく。1 回ごとに回収し，次回に再び優勝した者に同様にして渡す。

優勝者の名前を重ねていくことで，1 年間の活動の重みが実感できるはずです。



○ がんばりカードの活用

がんばりカードにシールを貼って活用します。試合を行ったり，優勝したり，級が上がったりするごとに貼るといいでしょう。シール効果は大です。取れた枚数を記録するカードを紹介します。（p３２参照）

もともとクラブ活動は同好の児童をもって組織されています。百人一首という共通の興味・関心を追求し，異年齢集団の交流を深めながら，百人一首の技術を向上させることができるのです。

ここでは，児童・生徒に楽しさを味わわせるためのいくつかの方法について紹介しました。

カルタはたくさん取れると楽しい遊びです。そのためには覚える作業も大切です。



百人一首のがんばりカード

（　　）年（　　）組　　名前（　　）

☆取った枚数の合計を書きましょう。枚数に応じてシールをはっていきましょう。

日にち	取った枚数	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100

取ったカルタの合計枚数　　集めたシールの合計枚数

	枚		枚

Ⅳ 百人一首に取り組むことで得られる，期待される効果

1 学級経営への効果について

百人一首に取り組むことで得られる，期待される効果として，児童・生徒の人間関係の構築，コミュニケーション能力の向上があげられます。また，クラスにおいて多くの児童・生徒が活躍できる場面を増やすということも考えられます。百人一首を通して，これらの効果を自然と学級経営に取り入れることもできます。

百人一首に取り組むことで得られる効果で，学級経営に生かすことができるものとして，具体的には以下のようなものが考えられます。

○チーム戦を取り入れることで，団結力が生まれてくる。

○休み時間に自主的に行う児童が出てくると，クラスの雰囲気が文化的なものになる。

○たくさんの児童・生徒と触れ合う機会が増えるため，男女の仲が良くなり，他者とのコミュニケーション能力を培うことができる。

○運動では活躍できない児童の輝ける１つの場となる。

○文化的な競技で，児童が楽しんで取り組むことができる。

○朝の活動に取り入れると，一日中教室がおだやかに安定している。

○順番の大切さが分かる。

○クラスの雰囲気が落ち着いたものとなる。

2 児童・生徒への効果について

百人一首に取り組むことによって，日本語の美しさに触れ，美しい言葉そのものを何度も繰り返し復唱することで，覚えた和歌を長く忘れることがなく，後の教養や知性の骨格になっていくことが期待されます。古典の素読や暗唱などの経験が，後の中学校や高校での「古文」への学習の抵抗感を無くすことも考えられます。

〇歴史的仮名遣いに対する基礎知識が自然に身についていく。

〇日本語の美しい調べ，言葉の響きの美しさを身につけることができる。

〇歌人の思いや考えを想像する機会が増える。

〇日本人の豊かな心を育むことができる。

〇暗記をするという行為に抵抗がなくなり，記憶力が鍛えられる。

〇「ことば」,「リズム」に敏感になる。

〇よく聞くことの大切さが分かる。

〇負けを受け入れ，乗り越えることで感情のコントロールができるようになる。

〇集中力が高まる。

〇続けることで，札を取ることができるようになるので，上達するという経験を積むことができる

〇楽しく遊びながら百人一首に取り組むことができる。

Ⅴ 参 考

1 百人一首大会の開きかた(校内編)

H26　○○校フェスタ「百人一首大会」実施計画

1　係　　◎主務者

実行委員長	全体把握・審判員へ指示 当日運営・表彰式進行	◎
配布物作成	文書作成と配布 （実施計画・申込書）	◎
運営 児童の指導	ルールの確認・説明・練習 組み合わせ・対戦表など作成	上学年… 下学年…
会場準備 片付け	会場のライン・畳の設定 ・会場図作成 ・畳の数・滑り止め準備　　など	◎
審判	大会の際，各試合会場に１名付く	◎　　（他学年１名ずつ）
賞品準備	優勝（図書券），参加賞	注文（　　）配付（　　）
読み手	各大会での札読み	
記録	写真撮影	◎

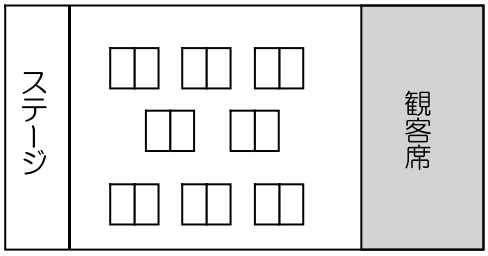
2　前日まで

９月　３日	職員会議		ルール表作成，担任に配布 共通理解を図る	
随　時		各クラスで	百人一首ルール説明・練習	担任
９月１１日			百人一首大会の申し込み配布	
１０月　３日 締め切り			申込み取りまとめ，　　へ は　　と相談	
１０月２１日	業間	体育館	畳を運び，ブルーシートをかけておく	
１０月２１日	業間	体育館	対戦相手決めのくじ引き （くじ準備：　　）	
１０月２２日 （演劇鑑賞有）	ロング昼休み	体育館	百人一首並べ方の練習・ルールの確認， 補助員（６年児童）の指導	
１０月２５日 （当日）	９時	職員室	担当者打ち合わせ（担当者名　当日の動き参照）	

3　前日

放課後　　畳運び（ステージ上へ）

百人一首大会時の，体育館見取り図



4　当日

１１時　　職員出勤　来ている人の顔合わせ
１２時　　児童…体育館集合（担任が確認）
　　教職員…百人一首大会の準備（全員）
１２時半　　大会開始
１４時　　抽選会　　<u>抽選会実施前に表彰式</u>
　　片付け

5　その他

上級大会出場者の５・６ 年生で，初級大会の補助員を参加グループ数と同じ人数（２３人）選出しておいてください。

審判の先生は，各試合についていただき，勝敗の記入，ルール表に基づいた審判，まだ取り終わらない場合の挙手（読み手へ）をお願いします。

H26　〇〇校フェスタ「百人一首大会」当日実施計画

当日の流れ

１１：３０ごろ　打ち合わせ　　（昼食はその前に済ませておく）

①用具準備（前日に用意できるものはしておく）

・百人一首札（　　）

１・２年初級　「う」の札２０枚×７組　予備１組

３・４年初級　「う」「つ」の札４０枚×４組　予備１組

上級　　１００枚札×５組　予備１組

読み札　「う」「つ」１組　　１００枚札１組

・児童用ゼッケン（登録番号を代表者がつける）（　　）

１・２年（１～１５）　３・４年（１～８）　上級（１～１０）

・パソコン（記録集計用）（　　）

・長机２，コードリール（　　）

・くじ引き用トランプ（上級用　勝ち組ＡＡ２２３　負け組３４４５５）（　　）

・受付用名簿，筆記用具，記録用紙，参加賞（　　）

②会場準備：バザーの片付けの様子を見て，準備開始。（　　）

・畳（滑り止め）

・畳表示札６，「お静かに」表示札６（いすにつけて掲示）

・保護者・児童用応援席表示４，大会参加児童待機場所表示２

・見学席エリア（カラーコーン）

・マイク２本

１２：１５　児童受付…体育館集合（初級１・２年，初級３・４年，上級の３か所）

・チームがそろって受付する。ゼッケンを渡し，代表者に付けさせる。

・対戦場所の近くに座り，待機させる。

１２：２５　開会式（司会：　　）

①開会のことば　　（実行委員長　）

②ルール，進行上の注意　　（　　）

１２：３０　　初級１回戦

１２：４０　　記録集計　２回戦対戦相手決定

１２：４５　　初級２回戦

１２：５５　　記録集計　上級者入れ替え（初級対戦後，参加賞配付）

１３：０５　　上級１回戦

１３：２５　　記録集計　２回戦対戦相手決定（　勝ち組，負け組別に　くじ引き後　移動　）

１３：３０　　上級２回戦

１３：５５　　片付け後，ステージ前にチームごと整列（　　）（上級対戦後，参加賞配付）

閉会式

①結果発表（　　）

②表彰及び講評（校長先生）

１４：００　　終了

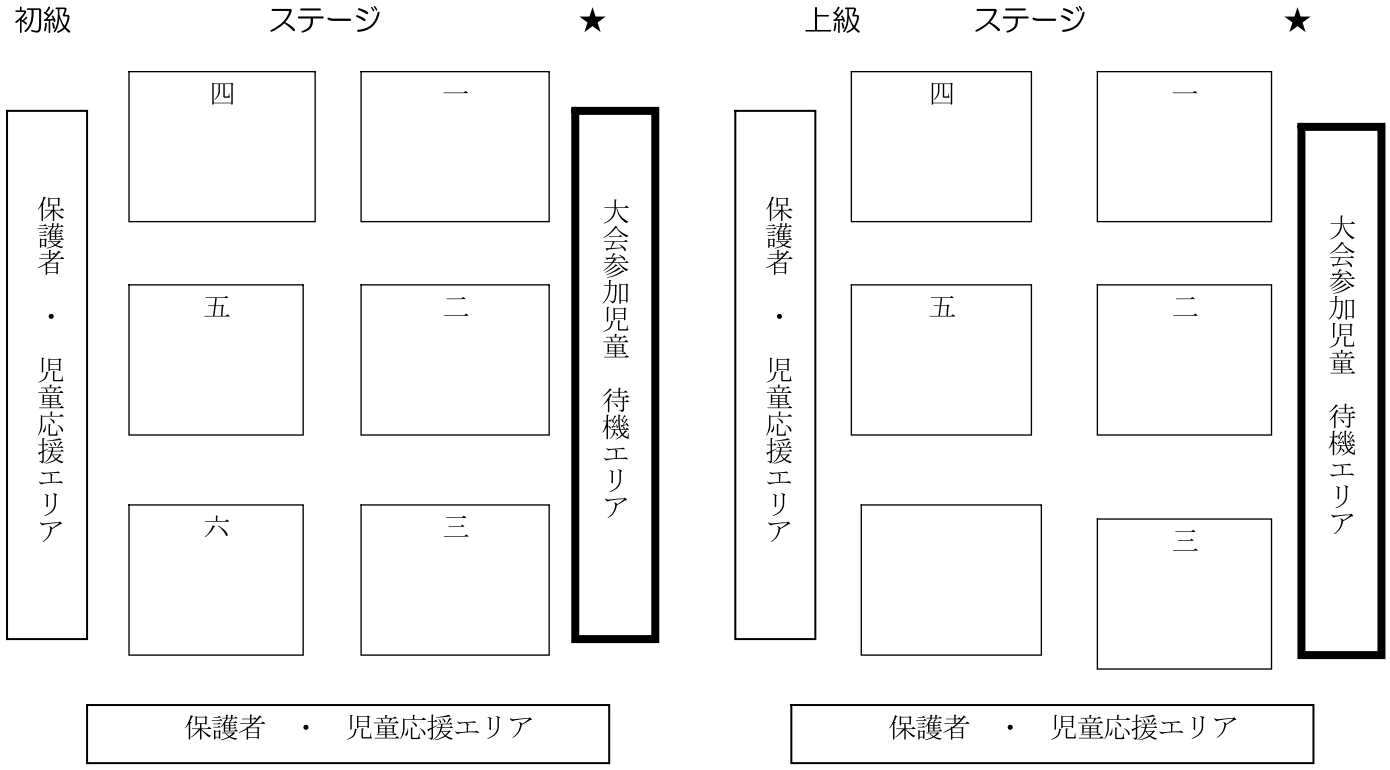
抽選会スタート

※上級大会出場者の５・６ 年生で，初級大会の補助員を参加グループ数と同じ人数（２３人）選出しておく。審判の先生は，各試合につき，勝敗の記入，ルール表に基づいた審判，まだ取り終わらない場合の挙手（読み手へ）をする。

役割分担

読手：
全体総指揮：
会場設営全般：
記録集計その他：
進行：
諸注意：
くじ引き：　　（上級２回戦）
参加賞配付（★配布場所）：
児童整列：

会場詳細図　及び　審判割り振り



※初級大会には１チームにつき１人５・６年生の補助がつきます。

「〇校フェスタ」百人一首大会（初級）ルール

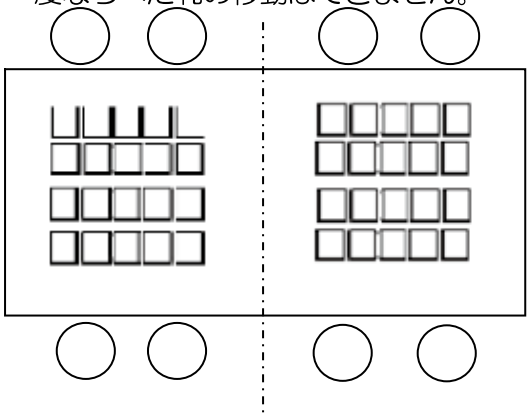
〈競技〉

① 取り札をならべる時間とおぼえる時間は３分間とします。
② 読み札は，1.2 年生は１７首，3.4 年生は３５首までとします。読み方は，「読みます」→上の句，下の句の順に読みます。

〈ならべ方〉

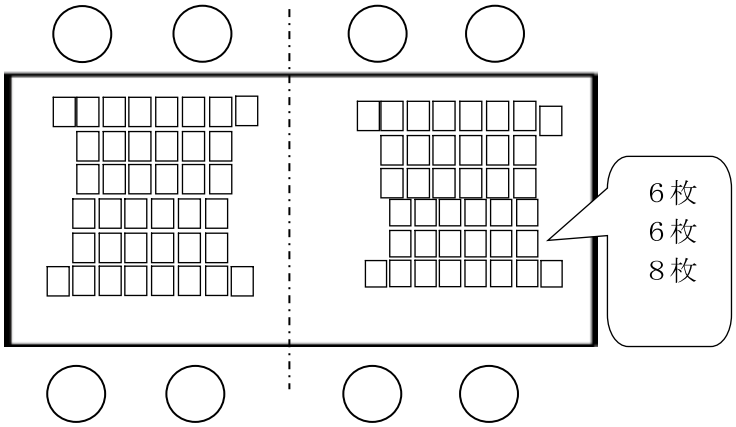
（１・２年生の部）

① ２０枚の札を，それぞれ 10 枚ずつ自チームに向け，見やすいように，ならべます。
② 一度ならべた札の移動はできません。



（３・４年生の部）

①４０枚の札を，それぞれ２０枚ずつ自チームに向け，見やすいようにならべます。
②一度ならべた札の移動はできません。



〈取り方〉

① 読まれている札をならんでいる札の中からさがし出して，早くさわった人が取ったものとします。
② 取り札を同時に取った場合は，札に近いチームが取ったものとします。

〈お手つき〉

読み札以外の札に手を付けた場合は「お手つき」とし，お手つきをした人は次回１回休みとします。お手つきをしたすぐ後に読み札を取った場合は，次回１回休みになりますが，取った札は有効になります。

〈その他〉

① 畳１枚につき２試合です。２試合目は，畳の中で勝ち同士，負け同士で行います。
② 「はらい手」（札を取るとき，札をはらってとばすこと）は禁止です。
③ 競技中，相手チームが札をならべている間は，補助員が手をあげていてください。
④ 句を読まれるまで，手は畳につけておきます。



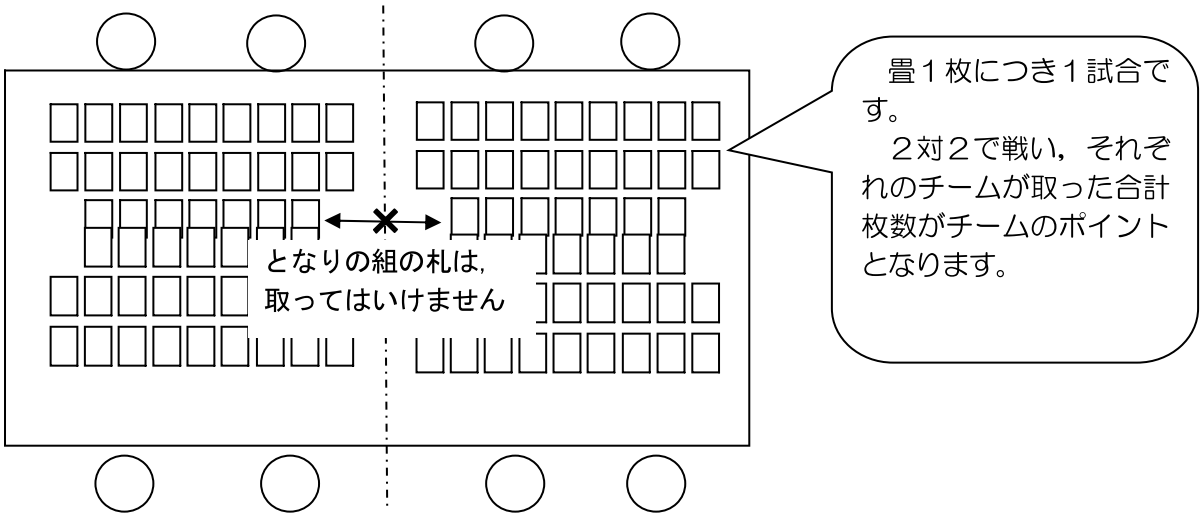
「○校フェスタ」百人一首大会（上級）ルール

〈競技〉

③ 取り札をならべる時間とおぼえる時間は５分間とします。
④ 読み札は９５首までとします。読み方は，「読みます」→上の句を読みます。下の句は時間短縮のため読みません。
⑤ 次の読みが，始まってからは，前に読まれた取り札は取りません。

〈ならべ方〉

③ ５０枚ずつ２組の札を，それぞれ２５枚ずつ自チームに向け，見やすいようにならべます。
札は３段に並べ，自陣の間隔は縦横約１ｃｍ，相手チームとの間隔は，約３ｃｍあけてください。
④ 一度ならべた札の移動はできません。



〈取り方〉

③ 読まれている札をならんでいる札の中からさがし出して，早くさわった人が取ったものとします。
④ 取り札を同時に取った場合は，札に近いチームが取ったものとします。

〈お手つき〉

読み札以外の札に手を付けた場合は「お手つき」とし，お手つきをした人は次回１回休みとします。お手つきをしたすぐ後に読み札を取った場合は，次回１回休みになりますが，取った札は有効になります。

〈その他〉

⑤ 「はらい手」（札を取るとき，札をはらってとばすこと）は禁止です。
⑥ 競技中，相手チームが札をならべている間は，手をあげていてください。
⑦ 句を読まれるまで，手は畳につけておきます。
⑧ 不戦勝のチームは，残りの試合の取り札の倍を総枚数とし，チームのポイントとします。



○校フェスタ「百人一首大会」のお知らせ

今年の○校フェスタでは，「百人一首大会」をします。たくさん参加してくださいね。

1　日　時

平成○○年○月○日（土）「○校フェスタ」の日

初級大会　（１・２年生の部，３・４年生の部）　　１２：３０～　１：１０

上級大会　　１：１０～　１：５５

百人一首１００枚

１・２年生の部　みやびぃ百人一首㊀２０枚
３・４年生の部　みやびぃ百人一首㊁２０枚
㊀２０枚合計４０枚　使います

2　場　所

○○小学校体育館

3　ルール

① 初級大会は，ひとつのチーム２人とします。１・２年生の部と３・４年生の部があります。１・２年生と３・４年生が組んで出る場合は，３・４年生の部にエントリーとなります。

② 上級大会は，ひとつのチーム４人とします。１～６年生が出られます。

③ 相手をかえて，２回対戦をします。

④ １回目と２回目の取った札の枚数が，自分たちのチームの点数になります。

⑤ ２勝したチームの中で，得点の高いチームが優勝となります。

4　その他

○ 土曜日なので，家の人とよく相談して参加しましょう。

○ 下の紙で申し込んでおかないと，この大会には出られません。（申し込んだら，同じチームの友達が出られなくなっても，必ず大会に出てください。）

百人一首大会（初級大会）申込書（10/3まで）

代表の人が，担任の先生に出してください。　チーム名（　　）

クラス	な　ま　え	クラス	な　ま　え
―	（代表）	―	

百人一首大会（上級大会）申込書（10/3まで）

代表の人が，担任の先生に出してください。　チーム名（　　）

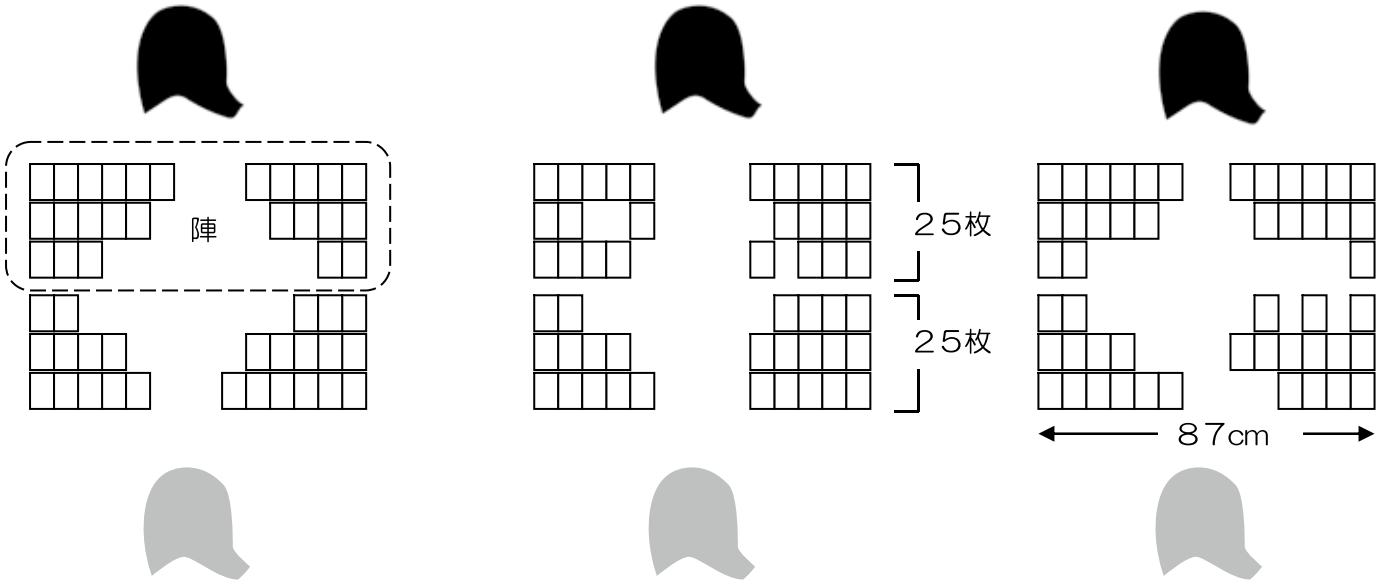
クラス	な　ま　え	クラス	な　ま　え
―	（代表）	―	
―		―	

2 競技かるた統一ルール

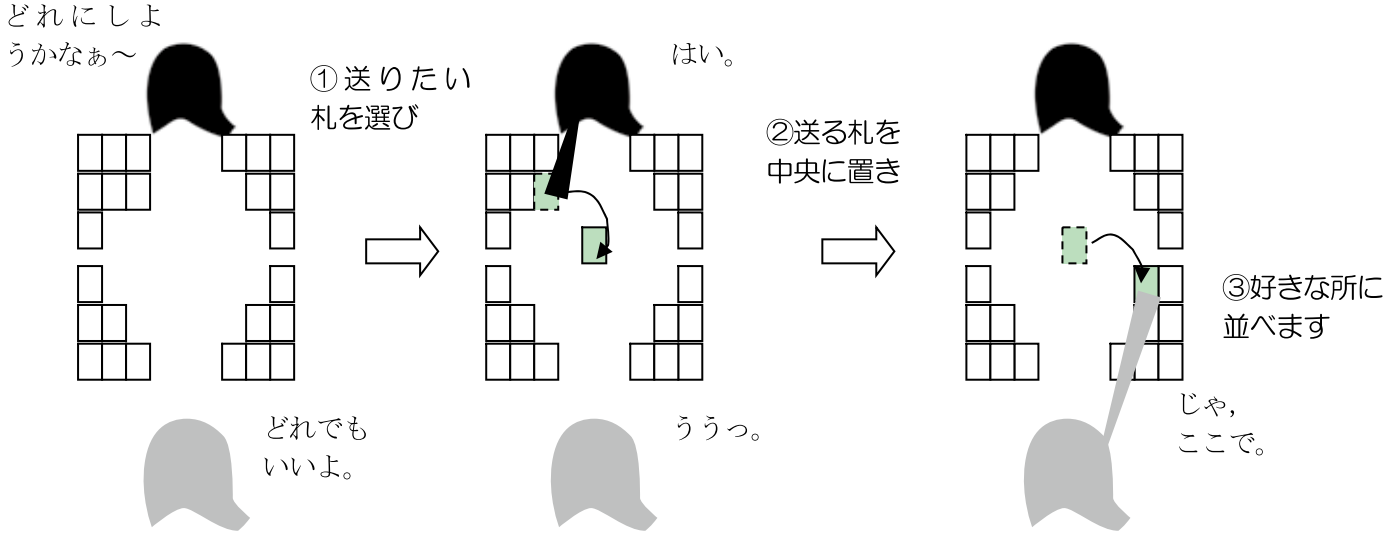
＜競技かるたとは？＞
うつのみや百人一首で言う「競技かるた」とは，払い手なしで，５０枚の札を使い，普通の競技かるたと同じように札を並べて行うかるたです。（高校生部門・個人戦初級クラスの２部門のみです）
５０枚の札を２５枚ずつに分けて１人vs１人で戦います。高校生部門は団体戦ですが，１チーム３人が１人ずつバラバラに戦います。勝敗の決め方は，先に自分の持ち札がなくなった人の勝ちです。札を何枚取ったのかは関係ありません。

1 札の並べ方

① ２５枚に分けた札をそれぞれ３段以内に並べます。並べる順番は決まっていません。
② 横の長さは８７cm 以内です。
※ 通常の競技かるたの並べ方と同じように並べてください。
※ 相手からもらった（＝送られた）札は，自由に並べてください。

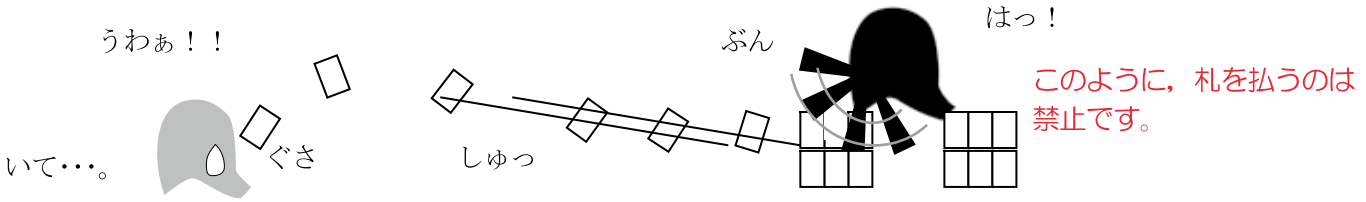


※ 相手からもらった（＝送られた）札の移動図



2　札の取り方

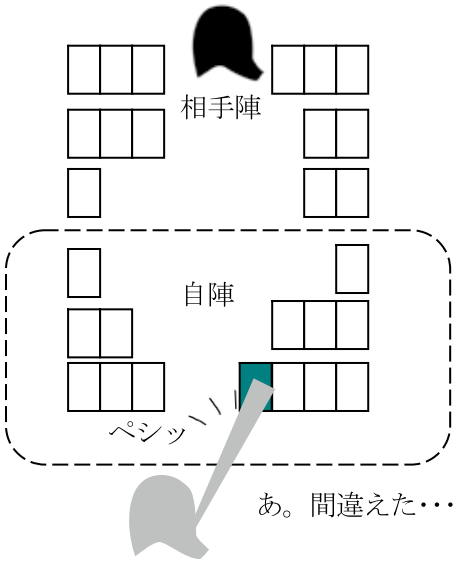
- 札をまとめて払って取る，払い手は禁止です。詠まれた札１枚に直接触ってください。
- 早く札に触った人の取りとなります。もし，同時に取ったときは，札に近い方の取りとします。
- 話し合っても解決しないときは，審判を呼んでください。でも，お互いに譲り合いましょう。



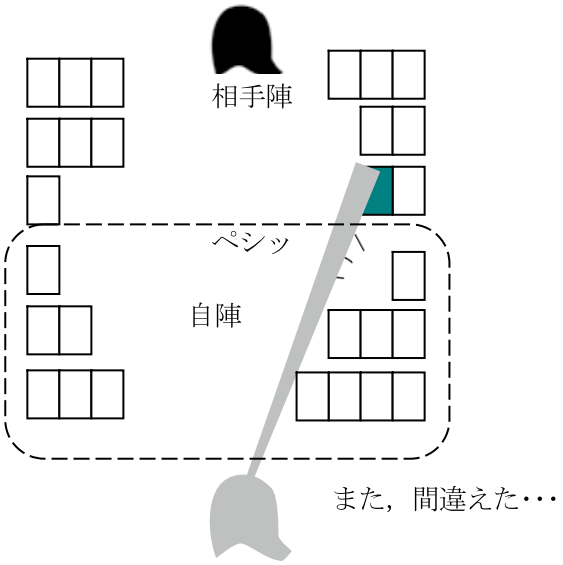
＜お手つき＞
お手つきをしたら，そのお手つきの種類に応じて，相手から１～２枚の札をもらいます。
同様に，相手がお手つきをしたら，自分の陣にある札を渡します。（これを「札を送る」といいます）
札をもらったら（＝送られたら）自陣の札として，自由に並べてください。

①送り札1枚のとき（以下，ⅰ～ⅵ）　※グレーみやびぃを自分とします

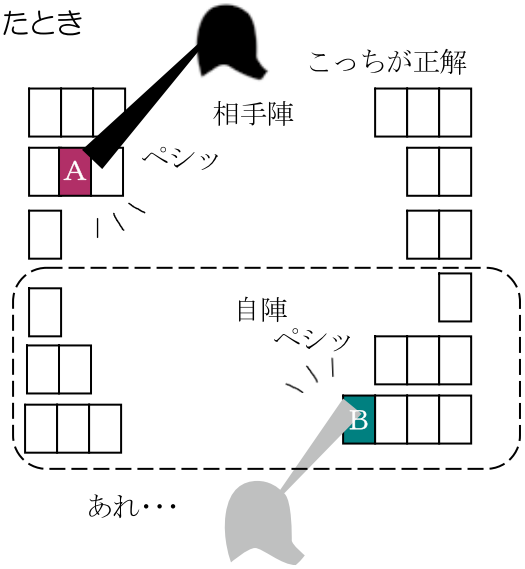
①－ⅰ　両方の陣に出札がないのに，自陣の札を触ってしまったとき



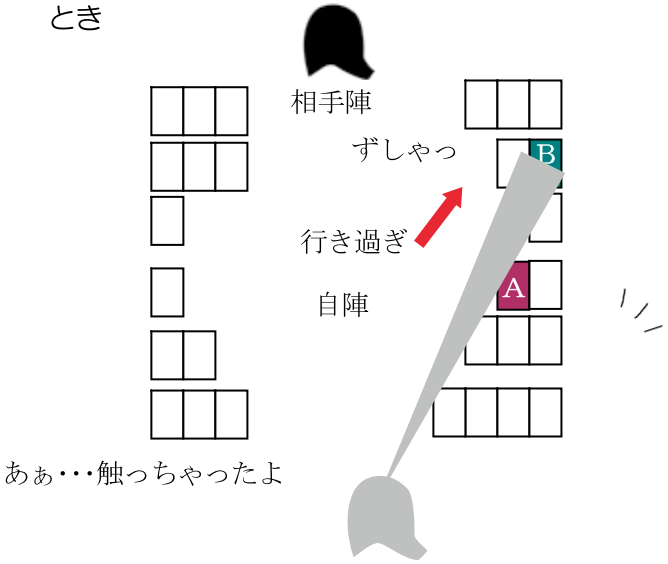
①－ⅱ　両方の陣に出札がないのに，相手陣の札を触ってしまったとき



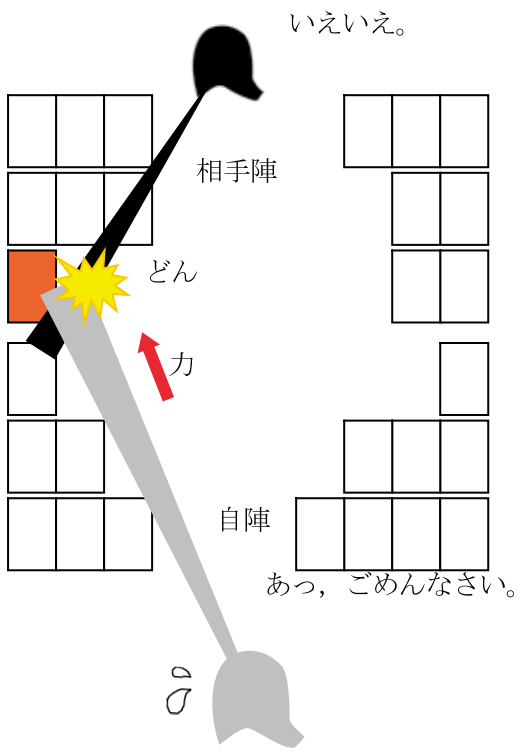
①－ⅲ　相手陣に出札（A）があり，自分は自陣の札（B）を触ってしまい，同時に相手が出札（A）を取ったとき



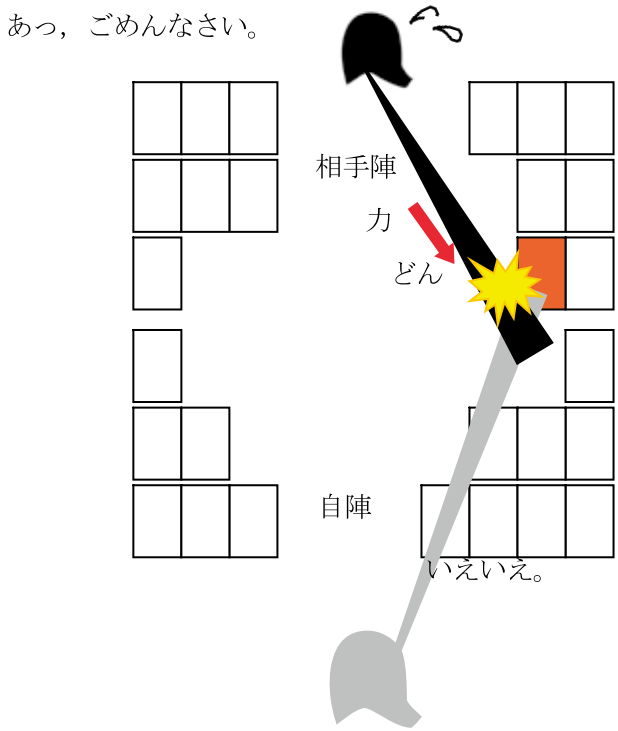
①－ⅳ　自陣に出札（A）があり，出札（A）を取ったが，同時に相手陣の札（B）にも触ってしまったとき



①－ⅴ 相手の手を押してしまい，出札がないのにどちらかの陣の札を触ってしまったとき

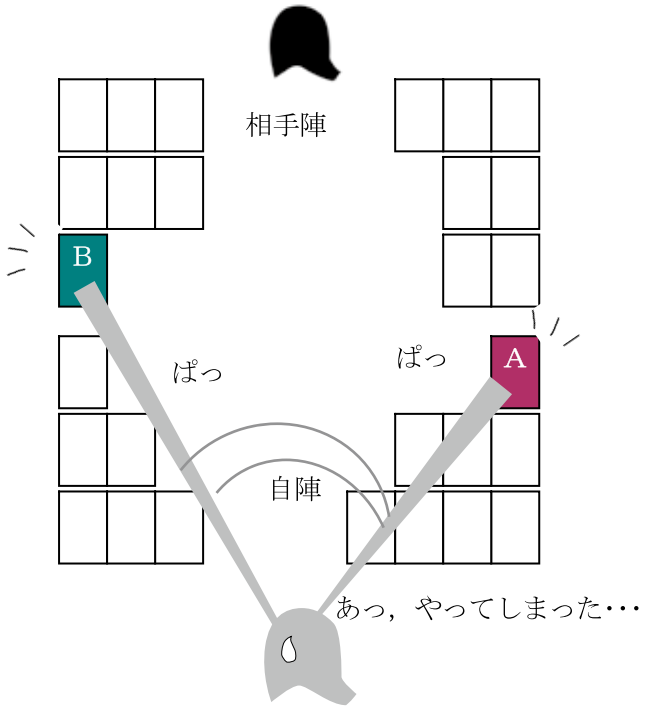


①－ⅵ 相手が自分の手を押して，出札がないのにどちらかの陣の札を障ってしまったとき

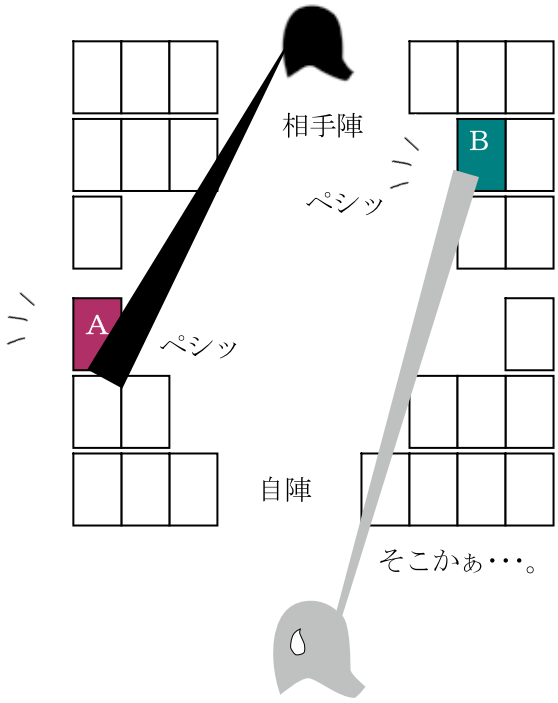


②送り札2枚のとき（以下ⅰ～ⅱ）

②－ⅰ 両方の陣に出札がないのに，自陣の札（A）と相手陣の札（B）に触ってしまったとき

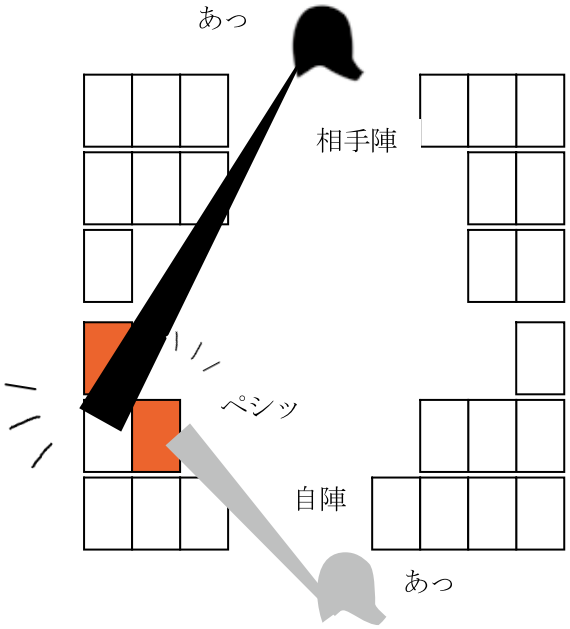


②－ⅱ 自陣に出札（A）があるのに，相手陣の札（B）を触ってしまい，その上，相手に自陣にある出札（A）を取られてしまったとき

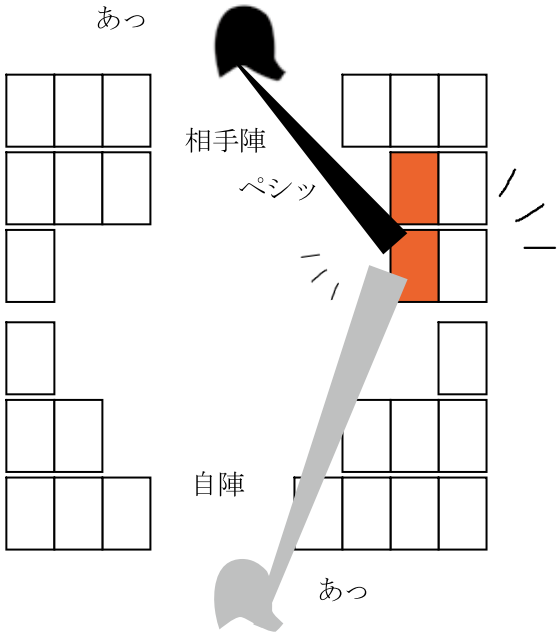


③送り札0枚のとき（以下ⅰ～ⅳ）

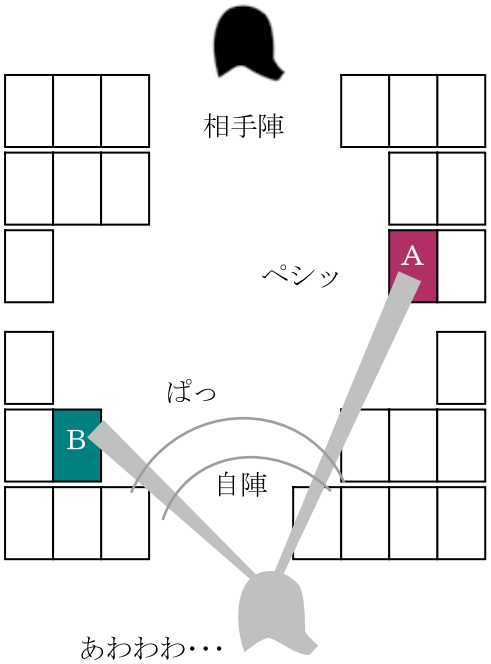
③－ⅰ　両方の陣に出札がないのに，自分と相手が自陣の札を触ったとき



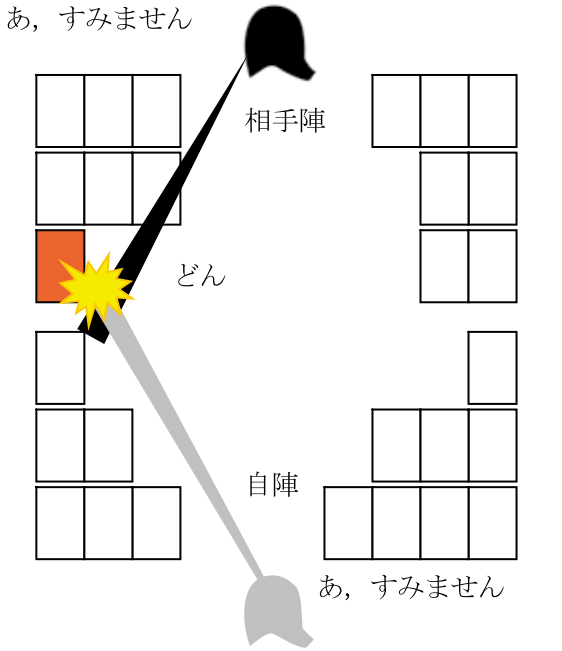
③－ⅱ　両方の陣に出札がないのに，自分と相手が相手陣の札を触ったとき



③－ⅲ　相手陣に出札（A）があり，自陣の札（B）に触ってしまったが，相手よりも早く相手陣の出札（A）を取ったとき



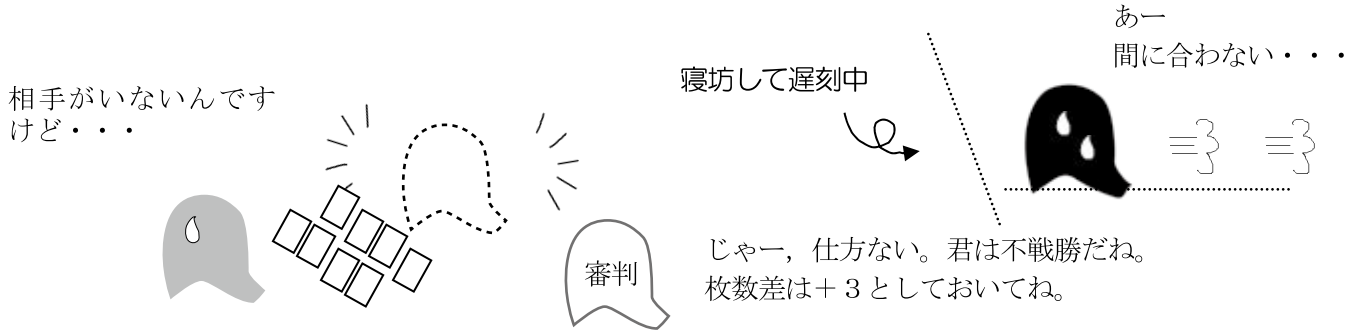
③－ⅳ　出札がないのに，お互いの手がぶつかって，どちらかの陣の札に触ってしまったとき



押したときとぶつかったときの違いは，見ている方には分かりづらいですが，競技者にははっきりと分かります。もし，分からないときは「今，ぶつかりましたよね」などと確認してください。

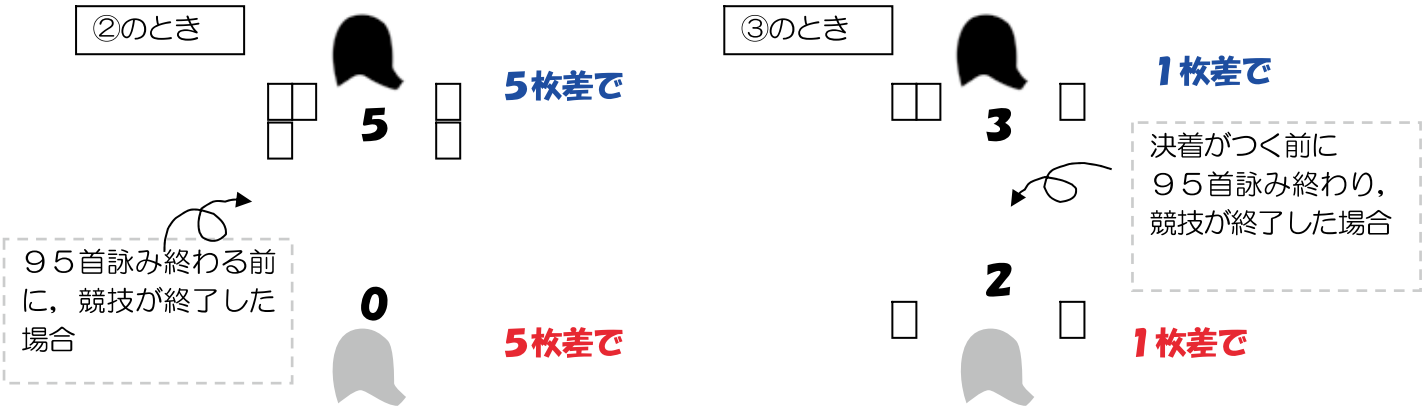
3　不戦勝のあつかいについて

・不戦勝の人は，その試合の枚数差を＋３とします。
・同様に，不戦敗の人は，その試合の枚数差を－３とします。
※不戦敗の人は，その試合の途中から，試合に参加することはできませんが，次回以降の試合からは参加できます。



枚数差とは・・・
　試合終了後に，その場に残った札の枚数を数えて【自己残数 － 対戦者残数 ＝ □枚】と計算します。
それで出た枚数が，対戦した二人の間にある枚数の差ということになります。
勝った人は「□枚差で勝った」，負けた人は「□枚差で負けた」と表現します。

＜例＞
① グレーみやびぃは不戦勝のため，枚数差は＋３となり，黒みやびぃは不戦敗なので枚数差は－３となります。
② 試合終了時に，グレーみやびぃの陣に０枚，黒みやびぃの陣に５枚のとき，グレーみやびぃは５枚差で勝ち，黒みやびぃは５枚差で負けたということになります。
③ 試合終了時に，グレーみやびぃの陣に２枚，黒みやびぃの陣に３枚のとき，グレーみやびぃは１枚差で勝ち，黒みやびは１枚差で負けたということになります。
※ ただし，通常の競技かるたでは，③のようにお互いの陣に札が残っているという状況はあり得ません。１００首まで詠まない場合のみ起こることです。
※ また，引き分けというのも滅多にありませんが，引き分けた場合は，通常のように記録カードに枚数差を記入してください。



3 いろいろな「枚数」と「人数」を使った活動例

(1)100 枚の札を使った団体戦の活動例

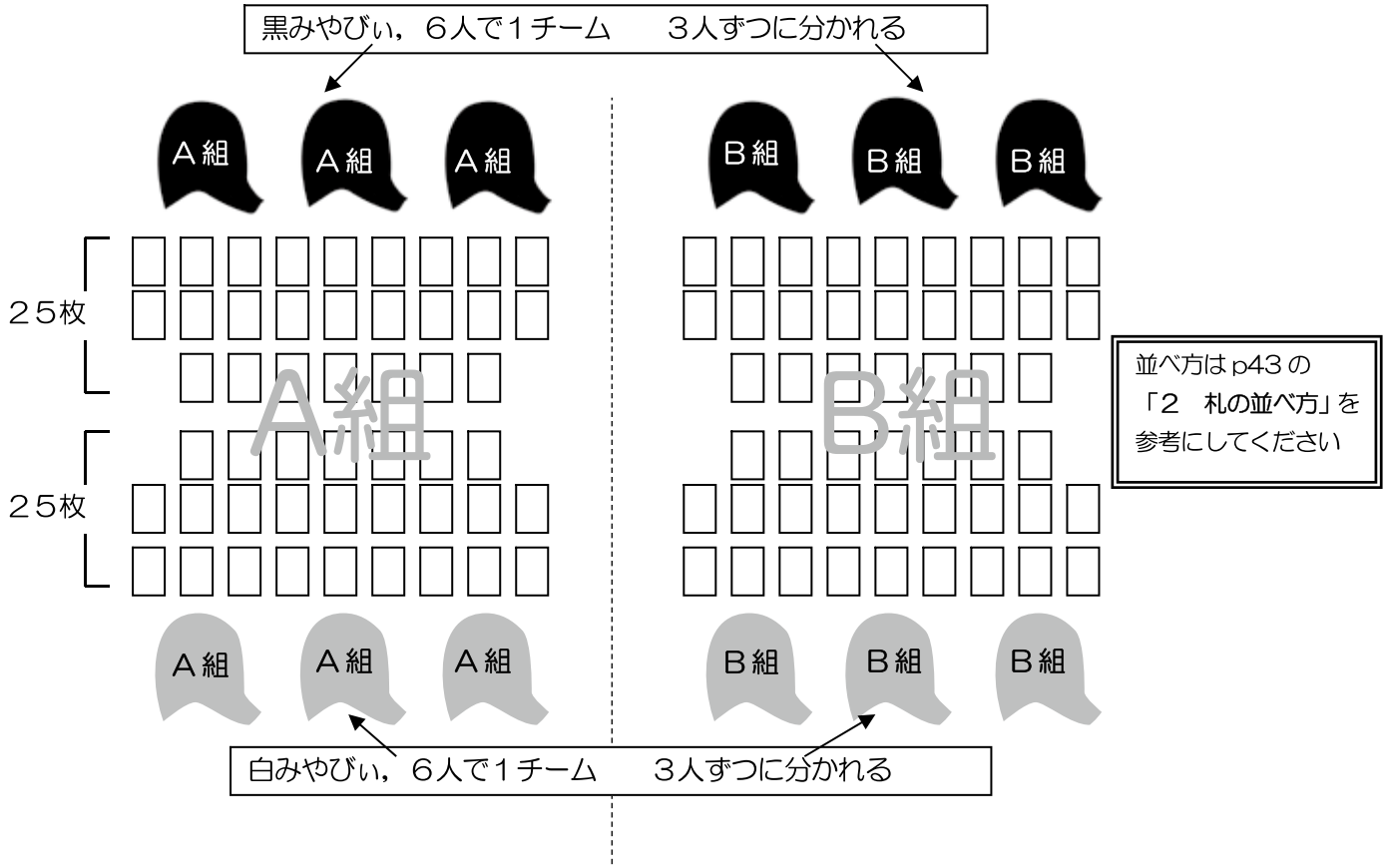
・100 枚の札すべてを使用します。

・札は１００枚を２組に分けて５０枚ずつ使用します。

・A 組は 50 枚の札を取り合い，B 組も 50 枚の札を取り合います。異なる組の札は取れません。

※　クラスの実状や，個人差に合わせて人数を変更してください。

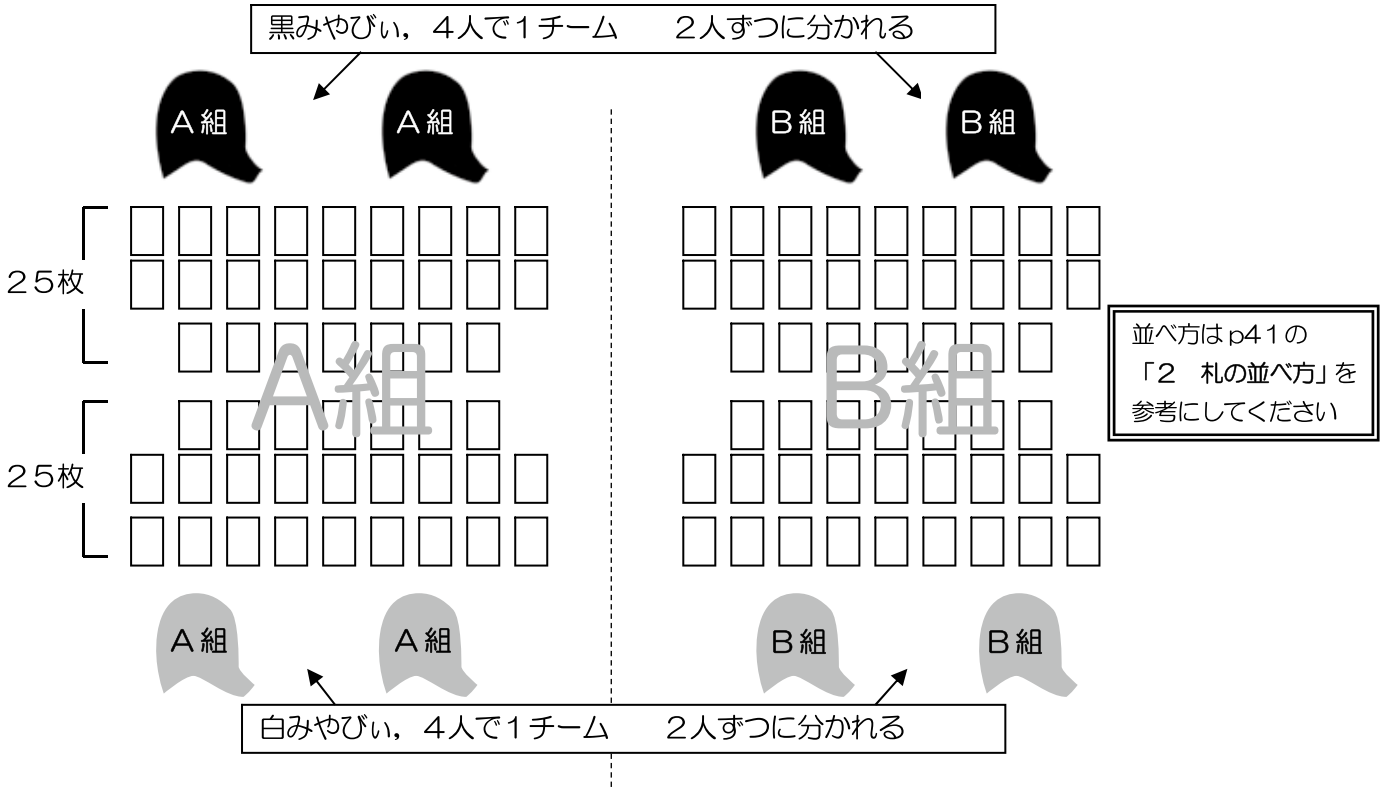
①　6 人 vs 6 人「ちらし戦」



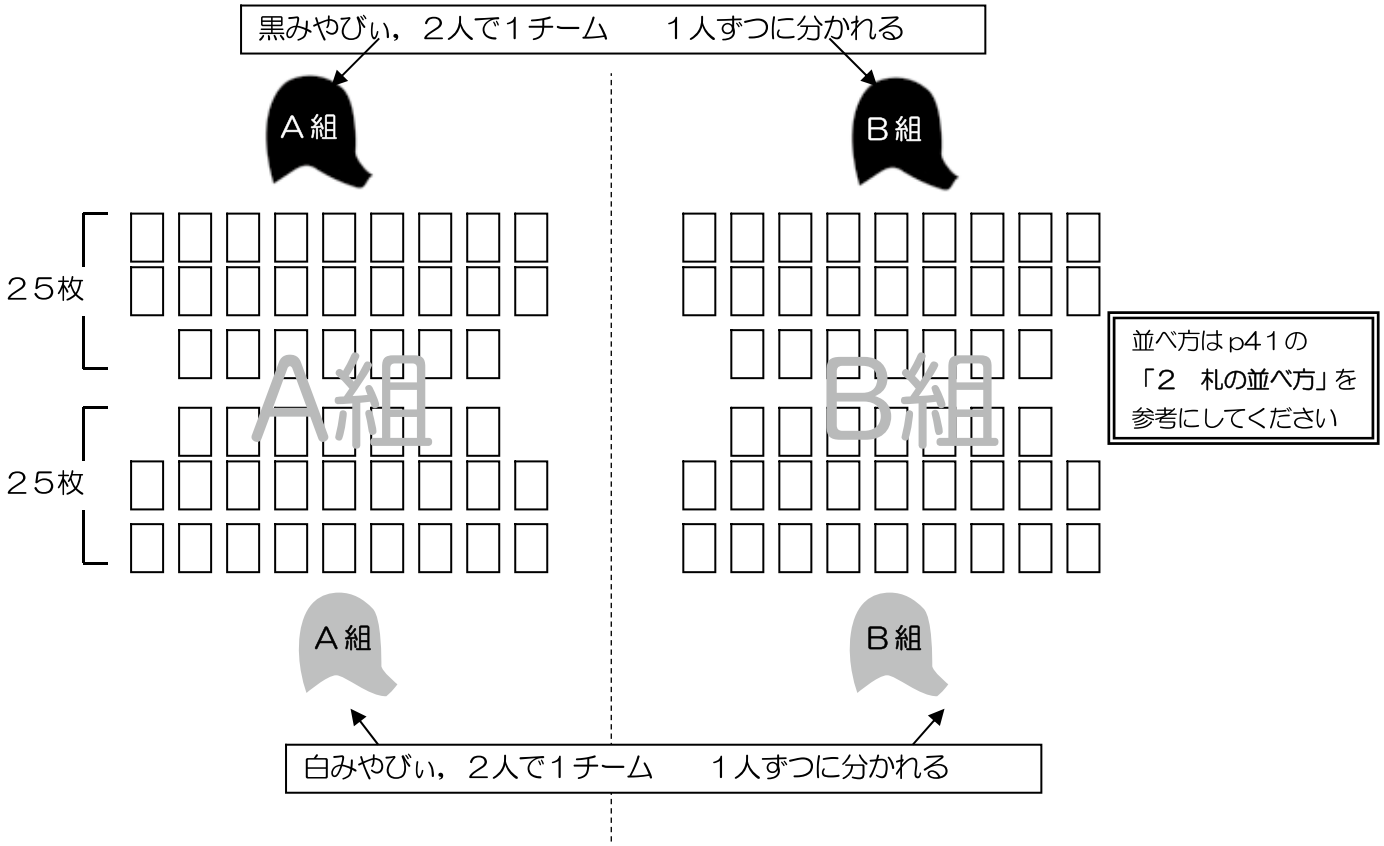
並べ方は p43 の「2　札の並べ方」を参考にしてください

※応援をするときは，大声を出したり，走り回ったり，騒いだりしないで静かに観覧してください。

② 4人 vs 4人「ちらし戦」



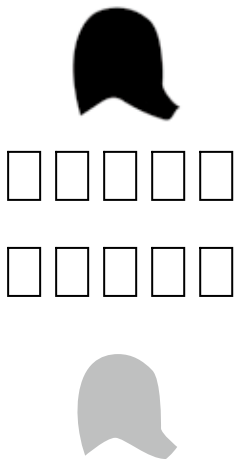
③ 2人 vs 2人「ちらし戦」



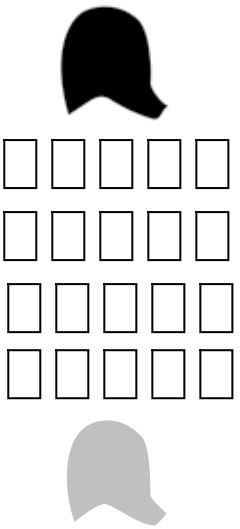
(2)札の枚数を変えた個人戦・団体戦の活動例

- 札は「う」「つ」「の」「み」「や」から選択をします。
- 枚数は，クラスの実状や個人差に合わせて変更してください。
- 短時間で決着がつくので，休み時間や複数回試合を行うときに参考にしてください。
- 学年で使用する札 20 枚を使うと効果が上がります。

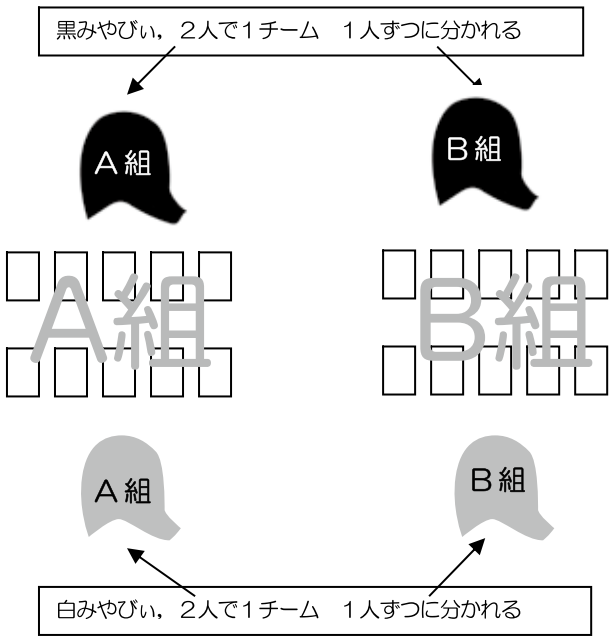
① 10 枚で1人vs1人



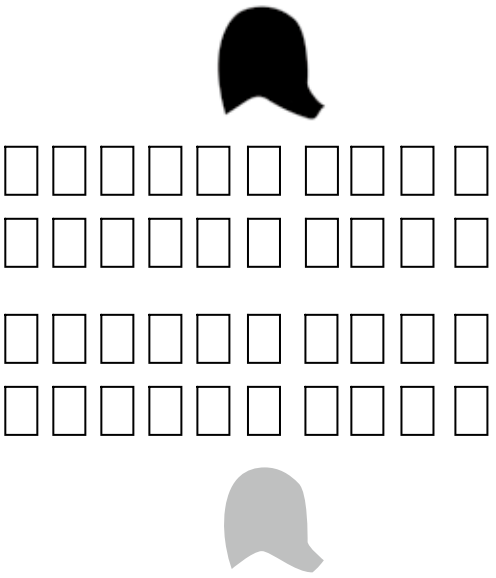
② 20 枚で1人vs1人



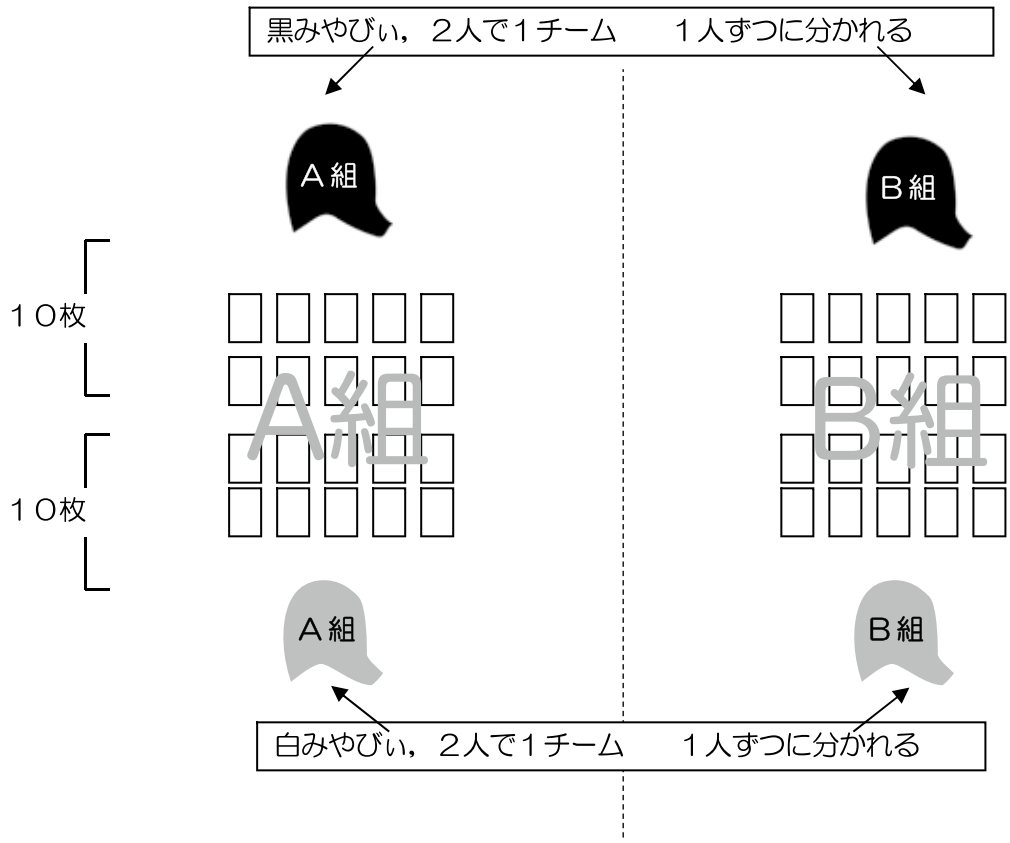
③ 20 枚で2人vs2人



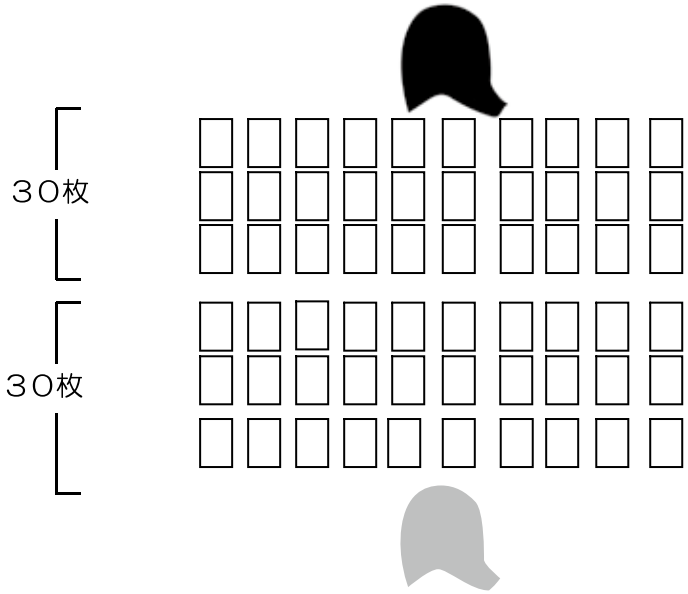
④ 40 枚で1人vs1人



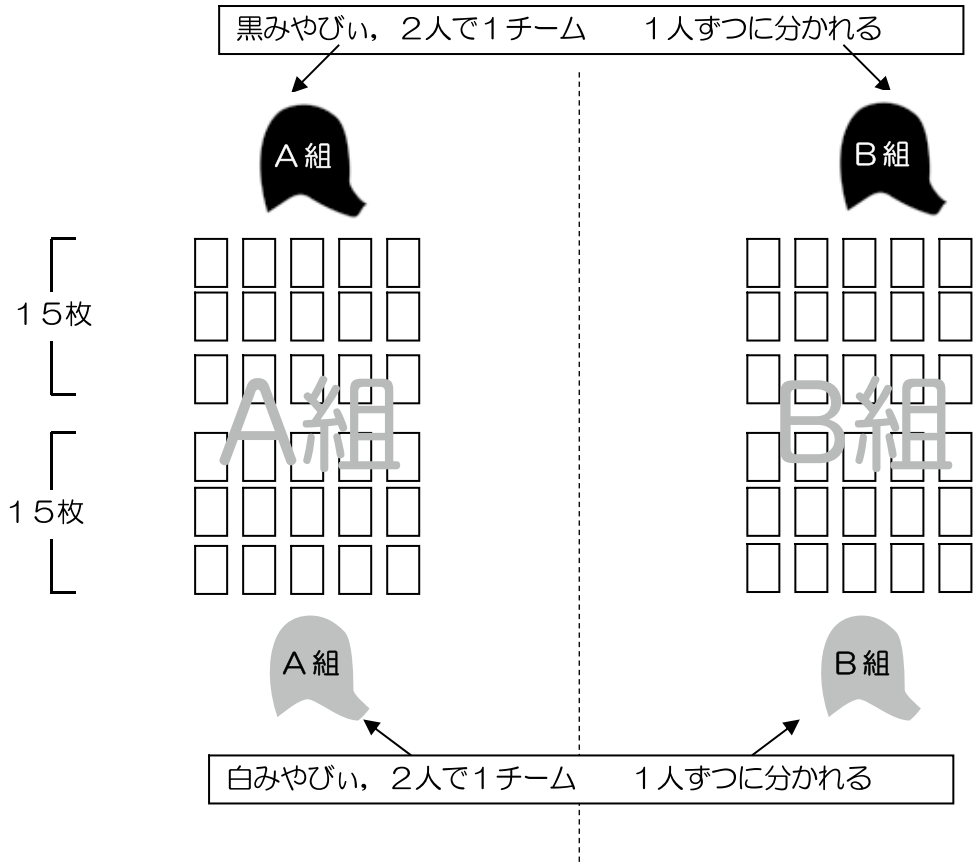
⑤ 40 枚で2人vs2人



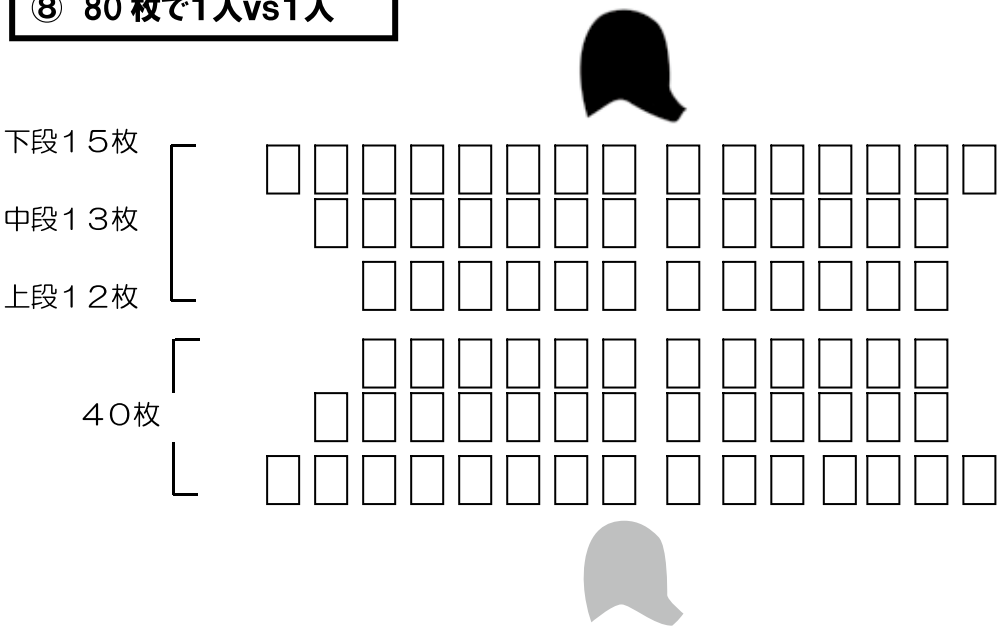
⑥ 60 枚で1人vs1人



⑦ 60 枚で2人vs2人

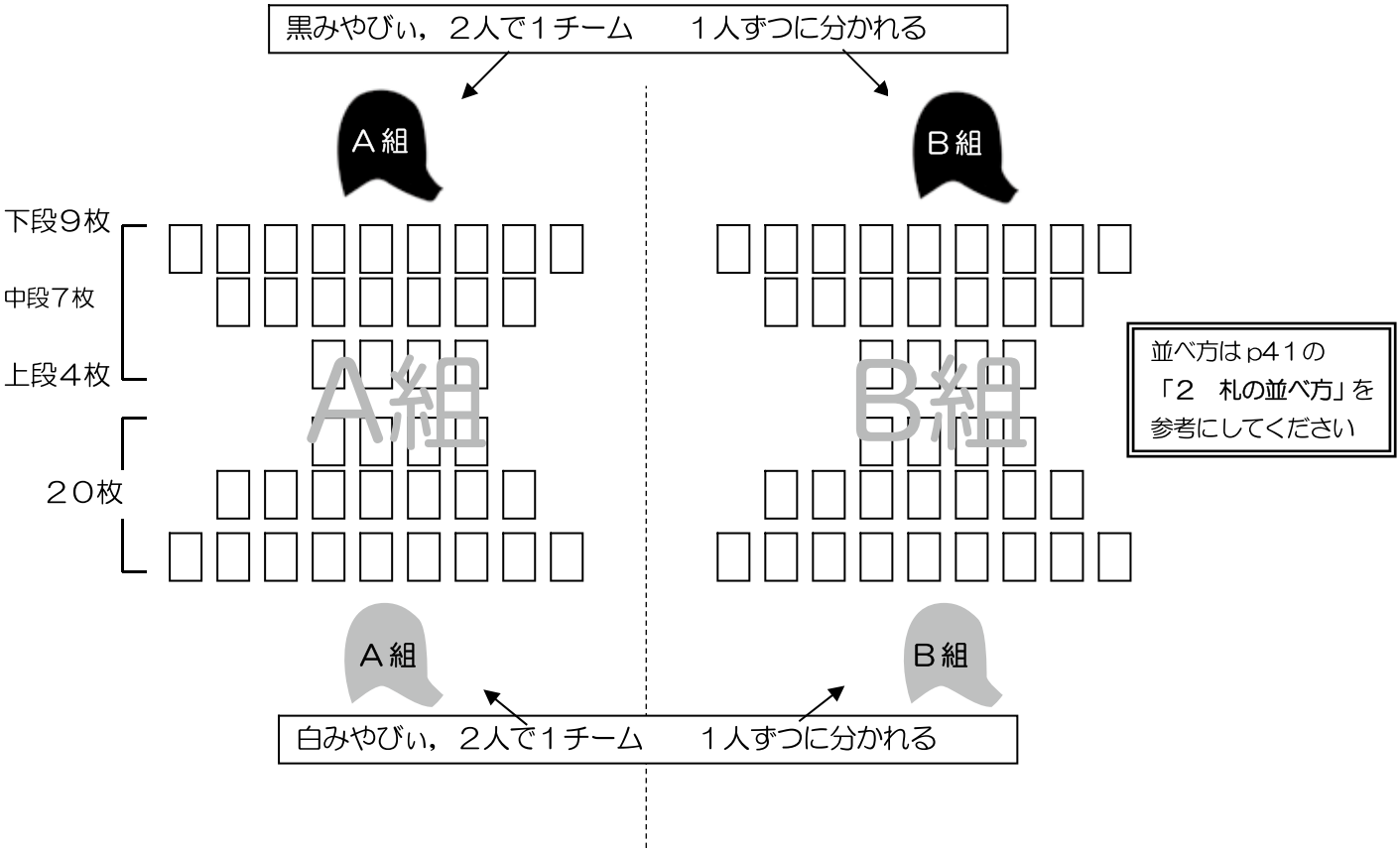


⑧ 80 枚で1人vs1人



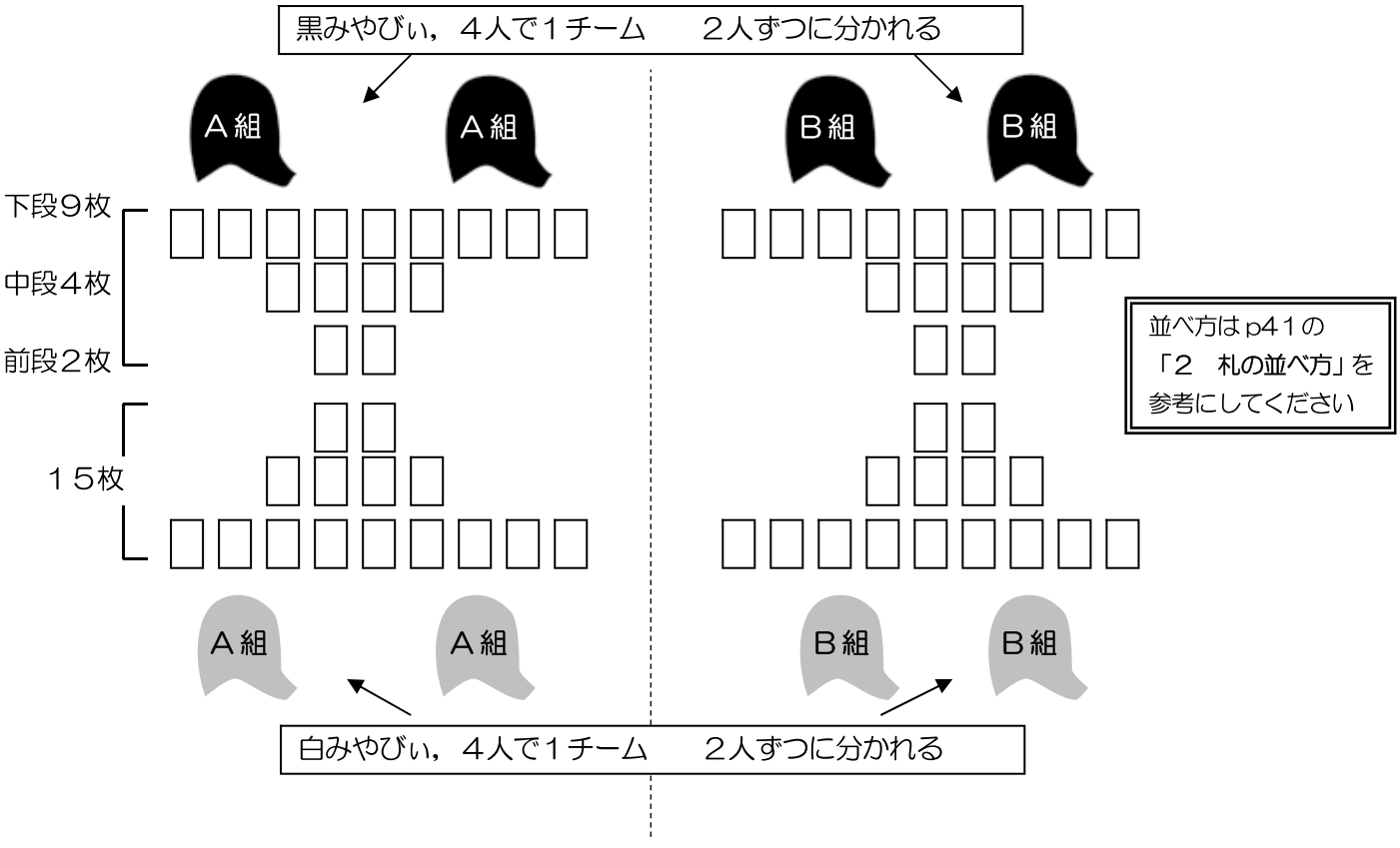
並べ方は p41 の
「2　札の並べ方」を
参考にしてください

⑨ 80 枚で2人vs2人



並べ方は p41 の「2　札の並べ方」を参考にしてください

⑩ 60 枚で4人vs4人

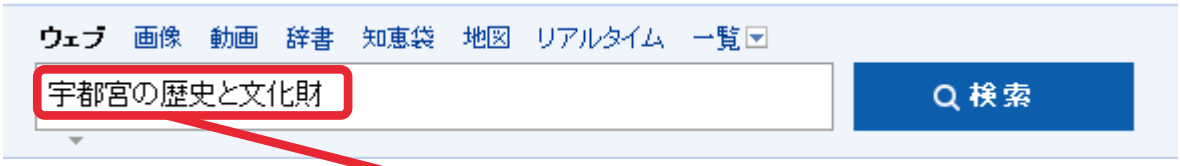


並べ方は p41 の「2　札の並べ方」を参考にしてください

4 本調査研究で紹介されている指導事例や教材について

本調査研究で紹介されている指導事例や教材は，インターネット上で簡単にダウンロードすることが可能です。紹介されている全ての電子データは，「宇都宮の歴史と文化財」のホームページ（ホームページアドレス　http://61.194.63.139/ext/）でダウンロードすることが可能です。

＜検索キーワード＞



直接“宇都宮の歴史と文化財”と入力しても，ホームページにいくことができます。



「宇都宮の歴史と文化財」のホームページ
「百人一首と和歌の都　宇都宮」をクリックすると，本調査研究で紹介されている指導事例や教材などをダウンロードすることが可能です。

5 年間指導計画における百人一首の時間

宇都宮市教育委員会が作成した会話科年間指導計画・評価計画（平成24年1月31日修正版）における「ことばの時間」のねらいは，

- 会話の楽しさやコミュニケーションの大切さに気づき，会話を通して他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。【コミュニケーションを図ろうとする態度】
- 考えたことや伝えたいことを，相手に分かりやすく話したり，効果的な表現を工夫したりすることができる。【日本語による豊かな表現力】

となっている。その中で，百人一首の時間における，各学年の題材名と目標は以下のようになっている。

○ 低学年

題材名　「はじめての百人一首（名作を声に出して）」（第１学年）
「百人一首をよんでみよう（名作を声に出して）」（第２学年）
目　標　・百人一首に興味を持ち，グループの友達と音読したり，教えあったりしながら，進んでコミュニケーションを図ることができる。
・百人一首のやり方が分かり，短歌のもつ語感やリズムを味わいながら，百

○ 中学年

題材名　「百人一首をやってみよう（名作）」（第３・４学年）
目　標　・百人一首に興味を持ち，グループの友達と音読したり，教えあったりしながら，進んでコミュニケーションを図ることができる。
・自分の好きな百人一首の札を見つけたり，音読したりして，短歌がもつ語感やリズムを味わいながら，百人一首を楽しむことができる。

○ 第５学年

題材名　「百人一首について調べよう（名作を声に出して）」
目　標　・自分で選んだ歌の現代語訳や，歌人について調べることができる。
・友達の調べた内容を聞いたり読んだりすることにより，百人一首への興味を深めることができる。
題材名　「百人一首を楽しもう（名作を声に出して）
目　標　・百人一首をしながら，日本語の響きやリズムの美しさを味わう。

○ 第６学年

題材名　「百人一首を楽しもう（名作を声に出して）」
目　標　・「や※」の11～20までの百人一首を重点的に覚えようとする。
・百人一首をしながら，日本語の響きやリズムの美しさを味わう。
題材名　「百人一首音読発表会（名作）
目　標　・歌の雰囲気を生かした朗詠の仕方（強弱や間の取り方など）が分かる。
・歌のリズム，言葉の響きを味わいながら詠み，発表することができる。

○ 中学１年

題材名　「百人一首の世界に親しもう（名作を声に出して）」
目　標　・百人一首をしながら，日本語の響きやリズムの美しさを味わう。

※　本文中の「う」「つ」「の」「み」「や」は，「みやびぃかるた」の５つに分けられたグループ名です。

実際に，小中学校において行われている授業の概要は，以下のようになっている。

第１学年
- 「う※」１～10 の 10 首程度の百人一首に触れる。音読したり，ちらし取りのやり方を知りグループでゲームを行ったりして，10 枚程度の百人一首を楽しむ。
- 百人一首遊びをしながら，短歌がもつ語感やリズムを親しむ。

第２学年
- 「う※」11～20，「つ※」１～10 の百人一首に触れる。１年生で学んだ百人一首を思い出したり，ゲームを行ったりして百人一首を楽しむ。
- 百人一首遊びをしながら，短歌がもつ語感やリズムに親しむ。

第３学年
- 「つ※」11～20，「の※」１～10 の百人一首を読んだり，１，２年生で学んだ百人一首を思い出したり，ゲームを行ったりして百人一首を楽しむ。
- 百人一首遊びをしながら，短歌がもつ語感やリズムに親しむ。

第４学年
- 「の※」11～20，「み※」１～10 の百人一首を読んだり，１，２，３年生で学んだ百人一首を思い出したり，ゲームを行ったりして百人一首を楽しむ。
- 百人一首遊びをしながら，短歌がもつ語感やリズムに親しむ。

第５学年
- これまでに学習してきた百人一首について，自分の選んだ歌の現代語訳，歌人について調べる。調べた内容は発表会や教室掲示などを利用しながら，友達と共有できる様にし，百人一首についての知識や興味をより深められるようにする。
- 「み※」の 11～20，「や※」の１～10 を覚える。
- 今までの経験を生かし，百人一首を楽しむ。

第６学年
- これまでに覚えた百人一首 90 首を思い出し。さらに「や※」の 11～20 を覚える。
- 今までの経験を生かして百人一首に楽しく取り組む。
- 百人一首の朗詠を通し，日本語の響きやリズムを味わう。
- 読み手を交替しながら，百人一首を楽しむ。

中学１年
- 小学校で学習してきた百人一首を思い出し，ことばの時間における百人一首学習について総まとめとする。

※　本文中の「う」「つ」「の」「み」「や」は，「みやびぃかるた」の５つに分けられたグループ名です。

本調査の研究員

「宇都宮ゆかりの百人一首における指導のあり方」

No	調査研究員氏名	所属
1	涌井　良徳	東小学校
2	吉田　昌美	宮の原小学校
3	土橋　繁雄	国本中央小学校
4	山田　明子	雀宮中央小学校
5	加藤　隆秀	瑞穂台小学校
6	野谷　知秀	新田小学校
7	横塚　高聡	河内中学校

※所属は平成 27 年３月　現在

■　問い合わせ先
宇都宮市教育委員会文化課
〒３２０－８５４０
栃木県宇都宮市旭１－１－５
ＴＥＬ　０２８－６３２－２７６４
ＦＡＸ　０２８－６３２－２７６５